

令和5年8月17日
於
府中市立教育センター

令和5年第8回

府中市教育委員会定例会議事録

府中市教育委員会

令和5年第8回府中市教育委員会定例会議事録

1 開 会 令和5年8月17日(木)

午後1時00分

閉 会 令和5年8月17日(木)

午後5時26分

2 出席者

教育長 酒 井 泰 委員 日 野 佳 昭

委員 平 原 保 委員 増 渕 達 夫

委員 山 下 和 則

3 欠席者

なし

4 出席説明員

教育部長 矢ヶ崎 幸 夫 文化スポーツ部長 佐 藤 直 人

教育部副参事兼指導室長 隅 田 登志意 文化生涯学習課長 鈴 木 正 憲

教育総務課長 田 中 啓 信 ふるさと文化財課長 江 口 桂

教育総務課長補佐 若 山 貴 ふるさと文化財課長補佐 廣 瀬 真理子

学校施設課長 角 倉 道 晴

学校施設課長補佐 遠 藤 勝 久

学校施設整備担当副主幹

崎 井 優 樹

学務保健課長 佐 伯 富 丈

学務保健課長補佐 奥 恵 一

給食センター所長 谷 本 耕 一

給食センター副所長 桐 生 光 章

教育支援担当主幹 菅 原 尚 志

教育指導担当主幹 濱 田 昌 也

指導室長補佐 南 學 進

指導主事 鈴 木 篤

指導主事 林 達 樹

指導主事 中 尾 友 昭

指導係長 伊 藤 登紀子

国語科教科用図書調査委員長

忍 足 留理子

社会科教科用図書調査委員長

森 嶋 正 行

算数科教科用図書調査委員長

渡 邊 和 子

理科教科用図書調査委員長

南 條 吉 男

生活科教科用図書調査委員長

堀 誠 一

音楽科教科用図書調査委員長

渡 邊 妙 子

図画工作科教科用図書調査委員長

高 橋 伸 嘉

家庭科教科用図書調査委員長

藤 咲 孝 臣

体育科教科用図書調査委員長

島 田 文 江

外国語科教科用図書調査委員長

宮 内 和 夫

道徳科教科用図書調査委員長

安 原 一 朗

小学校特別支援学級教科用図書調査委員長

生 井 信太郎

中学校特別支援学級教科用図書調査委員長

成 清 敏 治

5 教育委員会事務局出席者

教育総務課主任 徳 永 昭 子

教育総務課主任 青 木 なつみ

教育総務課事務職員 窪 田 桃 佳

議 事 日 程

第1 議事録署名員指名について

第2 会期決定について

第3 協議

(1) 令和6年度使用教科用図書の採択候補の選定について

第4 議 案

第4 4号議案

臨時代理による処理の承認を求めることについて（令和5年度学校歯科医の変更について）

第4 5号議案

令和5年度一般会計補正予算（第4号）に対する意見の聴取について

第4 6号議案

府中市学校適正規模・適正配置検討協議会諮問事項等の答申期限の延長について

第4 7号議案

府中市学校適正規模・適正配置検討協議会委員の委嘱について

第4 8号議案

令和6年度使用教科用図書の採択について

第5 その他

第6 教育長報告

第7 教育委員報告

午後1時00分開会

○教育長（酒井 泰君） ただいまより、令和5年第8回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

◇

○教育長（酒井 泰君） 日程第1、議事録署名員指名につきまして、本日の教育委員の議事録署名員は、山下委員にお願いいたします。

◇

○教育長（酒井 泰君） 日程第2、会期の決定でございますが、会期は本日1日といたします

◇

◎傍聴許可

○教育長（酒井 泰君） 傍聴希望者がおりますので、許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） それでは、許可いたします。

本日は議案が5件ございます。このうち、第48号議案につきましては、日程第3、協議の内容を踏まえて議案を作成いたします。つきましては、議事進行の都合上、日程第3、協議及び日程第4のうち第48号議案を議事日程の最後に審議することとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） それでは、本日の定例会の進行については、日程第7、教育委員報告の後、説明員交代等のため、定例会を中断・休憩し、定例会を再開して、日程第3、協議を行います。協議終了後、再度定例会を中断・休憩し、その後、定例会を再開して、第48号議案の審議をいたします。

また、会議時間が長くなる場合には、協議の途中で定例会を中断・休憩をいたしますので、よろしくをお願いいたします。

傍聴の皆様には申しあげます。府中市教育委員会傍聴人規則により、協議内容への発言や、議事進行の妨げとなる行為及び会話などは禁止されています。また、議場内における録音及び写真撮影等にご遠慮願います。

なお、本日の第45号議案については、手続未了のため、資料を一部省略して配布しております。

◇

◎第44号議案 臨時代理による処理の承認を求めることについて（令和5年度学校
歯科医の変更について）

○教育長（酒井 泰君） 日程第4、第44号議案の審議に入ります。議案の朗読をお願いします。

（事務局朗読）

○教育長（酒井 泰君） 説明をお願いします。

○学務保健課長補佐（奥 恵一君） それでは、第44号議案「臨時代理による処理の承認を求めることについて」、お手元の資料に基づきご説明させていただきます。

令和5年度の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱につきましては、令和5年第1回及び第3回の教育委員会定例会にてご承認いただいておりますが、府中市立府中第四中学校の学校歯科医について、新たに府中市歯科医師会からご推薦いただいた先生に委嘱をお願いするものでございます。

本来であれば、学校医の委嘱につきましては学校保健安全法第23条の規定に基づき教育委員会が行うものでございますが、学校医不在による保健衛生業務への影響等を考慮すると、特に緊急を要する事項であり、委員会を招集する時間的余裕がないことが明らかであったため、府中市教育委員会の権限委任等に関する規則第6条第1項の規定に基づき、教育長が臨時に承認事務を代理いたしました。

本件につきましては、先の規則第6条第2項の規定に基づき、臨時代理による処理の承認を求めるものです。臨時に代理した事務につきましては、2ページに記載のとおり、府中第四中学校の学校歯科医である神山友孝先生の退任に伴い、佐々木達哉先生を府中第四中学校の学校歯科医として委嘱いたしました。委嘱期間は令和5年8月1日から令和6年3月31日までを予定しております。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（酒井 泰君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

ほかにご意見はございますか。よろしいでしょうか。

それではお諮りいたします。第44号議案「臨時代理による処理の承認を求めることについて（令和5年度学校歯科医の変更について）」、決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 全員異議なしですので、原案どおり決定いたします。



◎第45号議案 令和5年度一般会計補正予算（第4号）に対する意見の聴取について

○教育長（酒井 泰君） 続きまして、第45号議案の審議に入ります。議案の朗読をお願いします。

（事務局朗読）

○教育長（酒井 泰君） 説明をお願いします。

○教育総務課長補佐（若山 貴君） それでは、ただいま議題となりました、第45号議案「令和5年度一般会計補正予算（第4号）に対する意見の聴取について」、ご説明いたします。

本議案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、当該補正予算案を本年第3回市議会定例会に提案するに当たり、市長から教育委員会へ意見聴取の依頼がございましたので、お諮りするものでございます。ご審議いただいた内容を踏まえ、市長からの依頼に対する回答を8月18日までに行うこととなっておりますのでよろしくお願いいたします。

なお、これからご説明する予算額につきましては、教育部各課の歳入歳出予算要求額をまとめたもので、確定額ではないことをご承知おきください。

初めに歳入予算でございますが、令和5年度教育関係歳入予算案（9月補正）をご覧ください。雑収入に対して減額補正を行うものとなっております。その理由につきましては記載

のとおりでございます。

次に歳出予算でございますが、令和5年度教育関係歳出予算案（9月補正）をご覧ください。教育総務費、小学校費、中学校費、社会教育費に対してそれぞれ補正を行うものとなっております。教育総務費は増額、小学校費及び中学校費は減額、社会教育費は増額補正を行うもので、その理由につきましては記載のとおりでございます。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○教育長（酒井 泰君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

ご意見はございますか。よろしいでしょうか。

それではお諮りいたします。第45号議案「令和5年度一般会計補正予算（第4号）に対する意見の聴取について」、決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 全員異議なしですので、原案どおり決定いたします。



◎第46号議案 府中市学校適正規模・適正配置検討協議会諮問事項等の答申期限の延長について

○教育長（酒井 泰君） 続きまして、第46号議案の審議に入ります。議案の朗読をお願いします。

（事務局朗読）

○教育長（酒井 泰君） 説明をお願いします。

○学務保健課長補佐（奥 恵一君） それでは、ただいま議題となりました、第46号議案「府中市学校適正規模・適正配置検討協議会諮問事項等の答申期限の延長について」、お手元の資料に基づき説明させていただきます。

本議案は令和4年7月21日の教育委員会にて議案として提出した府中市学校適正規模・適正配置検討協議会諮問事項等につきまして、府中市学校適正規模・適正配置検討協議会より期限の延長を依頼する文書をいただいたことから、答申期限を変更するものでございます。恐れ入りますが裏面をご覧ください。1の答申期限ですが、令和5年12月31日とするものでございます。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（酒井 泰君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員（日野佳昭君） 答申期限が延期になるということですが、学校の改築はすでに始まっており、改築に対する意見として、適正規模・適正配置に考慮して建築をお願いしますという意見が必ず出ます。今回、答申期限を延期するに当たって、特に適正規模に関しての建築・設計に対する配慮はどうなるのでしょうか。

○学校施設課長補佐（遠藤勝久君） 改築計画につきましては、令和6年度末の改定に向けまして、今年の7月に検討協議会を立ち上げて、今まさに検討を行っている状況でございます。この検討に当たりましては、12月にいただく適正規模・適正配置の答申と、それを踏まえた教育委員会としての考え方を反映できるように検討していきたいと考えております。

○教育長（酒井 泰君） ほかにご質問ございますでしょうか。

ご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それではお諮りいたします。第46号議案「府中市学校適正規模・適正配置検討協議会諮問事項等の答申期限の延長について」、決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(酒井 泰君) 全員異議なしですので、原案どおり決定いたします。



◎第47号議案 府中市学校適正規模・適正配置検討協議会委員の委嘱について

○教育長(酒井 泰君) 続きまして、第47号議案の審議に入ります。議案の朗読をお願いします。

(事務局朗読)

○教育長(酒井 泰君) 説明をお願いします。

○学務保健課長補佐(奥 恵一君) それでは、ただいま議題となりました第47号議案「府中市学校適正規模・適正配置検討協議会委員の委嘱について」、お手元の資料に基づきご説明させていただきます。

府中市学校適正規模・適正配置検討協議会委員は、府中市学校適正規模・適正配置検討協議会規則に基づく非常勤特別職として教育委員会が委嘱するもので、定数は12人以内、任期は1年でございます。今回委嘱を予定する委員は、昨年委嘱した12人と変更はございません。

各委員の選出区分、氏名、役職名につきましては、1ページの表に記載のとおりでございます。委員の選出団体等については、令和4年7月21日の教育委員会におきましてご承認をいただいているとおり、学識経験者3名、小中学校の校長を始めとした学校関係団体や各種地域団体に加え、公募市民で構成するものでございます。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長(酒井 泰君) 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

ご意見はございますか。よろしいでしょうか。

それではお諮りいたします。第47号議案「府中市学校適正規模・適正配置検討協議会委員の委嘱について」、決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(酒井 泰君) 全員異議なしですので、原案どおり決定いたします。



◎その他

○教育長(酒井 泰君) 日程第5、その他ですが、何かございますか。よろしいですか。



◎教育長報告

○教育長(酒井 泰君) それでは、日程第6、教育長報告に移ります。活動状況については別紙の「令和5年第8回教育委員会定例会教育委員会活動報告書」のとおりでございます。なお、この報告書は令和5年7月15日から令和5年8月11日までの活動内容となっております。

それでは、私から2点お話をさせていただきたいと思っております。

活動報告書にあるとおり、7月26日、27日の2日間にわたり、小学校6年生の日光林間学校を今年度の教育委員の視察として実施させていただきました。このときに日光を訪問していたのは、府中第四小学校、府中第六小学校、南町小学校の3校でした。いずれの学校の児童も元気よく日光の自然を満喫し、文化遺産に接し、多くのことを学んでいました。児童の代表が中心となって様々な活動に取り組んでおり、行動に際しては時間厳守も徹底されていて、事前学習の段階から児童の自主性を大切にした指導がなされていたことがうかがえました。児童が自分たちでつくり上げる宿泊学習は、参加した児童のよりよい成長を促すとともに、仲間との絆を深め、小学校時代のかげがえのない思い出となったことと思います。

2点目です。7月28日の午前中に英語体験授業「F u c h u E n g l i s h V i l l a g e」を参観いたしました。小学生と中学生の英語体験活動として、例年夏季休業中に取り組んでいますが、今年は内容をさらにバージョンアップするとともに、参加人数も増やして実施されました。私が参加した日は、小学校の高学年の児童を対象としたものでしたが、グループに分かれて、児童たちは旅行代理店や映画館、飛行機の機内を想定した体験活動に楽しそうに取り組んでいました。今年度から小学校5年生と中学校1年生を対象に、立川の「TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGS」での英語体験を始めていますが、対象学年以外の児童・生徒や、TGGの体験が楽しかったのでという理由でこの授業に参加したいと思う児童・生徒も多く、多数の応募者がいて、全ての児童・生徒の希望に応じきれない状況となるぐらいだったそうです。次年度以降もさらに取組の拡大ができるとよいと思っています。

私から1点報告をさせていただきます。日本共産党府中市議団より、小中学校給食の無償化の実施に関する署名の提出がございましたことをご報告いたします。教育委員の皆様へ情報提供をさせていただきます。



◎教育委員報告

○教育長（酒井 泰君） 日程第7、教育委員報告に移ります。活動状況については別紙のとおりでございます。

まず日野委員、お願いいたします。

○委員（日野佳昭君） 7月26日、27日、日光林間学校を視察してまいりました。連日38度という猛暑の中でしたが、天候には恵まれ、晴れの日が続きました。最初の目的地の日光東照宮に参拝です。暑い中、四小の児童と長い階段を上がり、奥宮まで何とかついていきました。子供たちは大変元気に、また楽しそうで、良い思い出となったことでしょう。

来年度から宿泊するホテルは日光の中心部にあり東照宮の近くでした。ホテルの社長さんからは、アレルギー対応ほか、安全対策につき詳細にご配慮のあるご説明をいただきました。保護者の方も安心していただける宿泊先だと思います。

今回のホテルは、いつもの奥日光高原ホテルとほのかな宿樹林です。夜は六小のキャンプファイヤーを楽しく拝見しました。ホテルでも大変礼儀正しく行儀よく、誇らしく思いました。お風呂は硫黄の白濁した温泉で、子供たちの旅行の疲れが癒されたのではないのでしょうか。食事は子供たちの喜ぶ茶色一色でしたが、私にはやや重い食事でした。

帰りの日程では、日光江戸村の後、最後の昼食は南町小と一緒に餃子などの中華料理でし

た。なお、私は餃子定食のみです。大変よい企画でおいしくいただきました。子供たちは礼儀正しく、従業員の方からは「今までのどの学校よりも行儀がよい」とお褒めの言葉をいただきました。コロナ禍の後の林間学校です。中止となったここ数年の失った思い出の重みを感じます。

活動報告にはありませんが、7月25日、医療的ケア児連携会議がありました。医療的ケア児の親御さんからは、一向に進まない学校での受入れに涙ながらのお叱りの言葉をお伺いしました。しかし、私の見たいには、各機関、特に連携会議のメンバーの皆さんは大変努力されています。やはりトップダウンの予算措置などが必要かもしれません。以上です。

○教育長（酒井 泰君） ありがとうございます。続きまして、平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 先日、教育委員会事務局から届いた各校の1学期末の学校だよりを拝読させていただきました。各校の学校だよりやPTA広報紙には、1学期における子供たちの活躍する様子や成長した姿が掲載されています。運動会、5年生のわくわく自然教室、中学1年生の移動教室、部活動など、豊かな体験学習において、人との関わり、自然との関わり、社会との関わりを通して、思いやりや規範意識、責任感、自己肯定感の高まりなど、子供たちが心身ともに大きく成長した姿を捉えることができました。

夏休みも残すところ10日余りとなりました。夏休みを迎えるに当たり、各校の校長先生から子供たちへのメッセージが学校だよりに記載されています。家族で楽しく安全で充実した夏休み、自然とのふれあい、体験や学習への挑戦、探究心を持って挑戦する夏休み、将来につながる夢中になれることに十分時間を費やしてほしいことなどです。こうしたメッセージを受け止めて、府中市の子供たちが残された夏休み期間も健康と安全に気をつけて、充実した夏休みの生活や学習に取り組み、2学期も元気に学校生活を過ごしてほしいと願っています。以上です。

○教育長（酒井 泰君） ありがとうございます。続きまして、増淵委員、お願いします。

○委員（増淵達夫君） 7月15日の中学校生徒会リーダー研修会の参加については、前回報告をさせていただきました。市内の中学校の生徒会役員が一堂に会して、リーダーシップのことや自分たちの学校をよりよくするための取組、そしてICTを活用しながらの生徒の意見の集約など、大変感銘を受けました。

この期間の教育委員としての活動としては、この後の議題になりますが、小学校教科書の調査研究についてです。細かいところはこの後にするとして、まず包括的なところでは、どの教科書も子供たちの知識・技能の習得や、思考力、判断力、表現力等の育成、さらに学習を深めていくための工夫などが施されていると思いました。また、二次元コードによるICTの積極的な活用の促進のための工夫もされていると思いました。初任者など経験の浅い教員でも、教科書を踏まえることで一定水準の指導が可能になると思いました。

また、教員だけではなく、保護者や地域の方々にも、使用する教科書の特徴などについてぜひ情報共有をしていただきたいと思います。今回学校から配られた学校だよりには、例えば南白糸台小学校では「南白小の未来をえがく！」として、社会科、理科、国語、算数の教科の目標や取組を発信していました。学校教育の中心は授業だと私は思っています。教員が子供と接する最も多くの時間が授業です。各学校での授業の取組を保護者や地域の方々理解できるよう、学校としてもっと積極的に発信する必要があるのではないかと思います。

教科学習で求められるものは一体何なのか、学校と家庭で共有することが重要です。

学校評価のアンケートでは、「授業が楽しい」「授業が分かる」というような回答がありますが、児童・生徒や保護者が具体的な事実を根拠に回答できるよう、改めて授業に関する情報発信について検討していく必要があるのではないかと思います。こういった思いを込めながら教科書採択のための調査研究を進めさせていただきました。ぜひ、いい形で授業を進めていただきたいという思いを込めたいと思います。以上です。

○教育長（酒井 泰君） ありがとうございます。最後に、山下委員、お願いいたします。

○委員（山下和則君） まず初めに、8月1日に東京都市町村教育委員会連合会第2回研修推進委員会に出席してまいりました。事業予定としまして、8月24日に理事研修会として「個別適切な学びと協働的な学びの一体的な充実」と教員に求められる資質能力をテーマに講演会が行われます。講師は東京都多摩教育事務所指導課長、吉成嘉彦様です。令和5年度第1回研修会としまして、10月6日に「子どもを幸せにする睡眠と生活習慣とは？」をテーマに行われます。講師は文教大学教育学部特別支援教育専修教授成田奈緒子様、公認心理師上岡勇二様です。第2回理事研修会は1月16日で、テーマは未定ですが、講師として東京都多摩教育事務所所長、小島貴弘様です。令和5年度第2回研修会として、2月29日、「日本の教育のこれからを目指すべき姿」、まだこれは案ですが、これをテーマに行う予定です。講師として、文部科学省初等中等教育局主任視学官、宮崎活志様です。詳しいことや講演会の内容が分かりましたら、改めてご報告させていただきます。

次に、私は今回初めて教科書選定に携わらせていただきました。教科書は子供も卒業してしまえばしばらく見ることもなかったのですが、久しぶりに小学校の教科書を読ませていただきました。なかなか教科書に触れることがないので、よい機会をもらえたと思いました。今の教科書には新しいことも多くあり、なかなか自分の中に入っていないこともあったのですが、小学校では習ったことのない英語の教科などの新しい教科もあり、とても新鮮な気持ちになりました。また、二次元コードもついており、教科書だけでなく、映像や動画で分かりやすい設定になっていると感心しました。詳しくはこの後の教科書採択にかかる協議の中でご報告させてもらえればと思います。以上です。

○教育長（酒井 泰君） ありがとうございます。

それではここで一旦定例会を中断し、10分間の休憩といたします。再開はこの会場の前方の時計で13時38分にしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

午後1時28分中断



午後1時38分再開



◎協議 令和6年度使用教科用図書の採択候補の選定について

○教育長（酒井 泰君） それでは定例会を再開いたします。日程第3、協議として「令和6年度使用教科用図書の採択候補の選定について」、協議いたします。説明をお願いします。

○教育指導担当主幹（濱田昌也君） それでは、「令和6年度使用教科用図書の採択候補の選定について」、これまでの経過について報告いたします。

小学校用教科用図書については、「小学校用教科書目録（令和6年度使用）」に登載され

ている全11教科において調査研究委員会を設置し、5月16日から6月21日まで調査・研究を行いました。また、5月10日から6月13日まで、小学校全校に見本本を回覧し、各学校で調査・研究を行いました。各教科の調査委員会及び各学校での調査・研究を踏まえ、校長及び保護者代表を含む選定資料作成委員会において各教科の選定資料を作成しました。

市民からの意見については、6月21日から7月5日までの14日間、中央図書館において展示し、41件のご意見等をいただきました。

次に、中学校用教科用図書の採択については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条及び同法施行令第15条の規定に基づき、令和6年度につきましては、令和5年度に採択したものと同一の教科用図書を採択候補といたします。

次に、小・中学校特別支援学級用教科用図書については、検定済教科用図書を使用する場合は、府中市で採択される教科用図書と同一のものを採択候補といたします。

ただし、小・中学校の特別支援学級において特別の教育課程を編成している場合、学校教育法附則第9条第1項及び同法施行規則第139条の規定により、教科により当該学年用の文部科学省検定済教科用図書を使用することが適当でないときは、設置者の定めるところによりほかの適切な教科用図書を使用することができることとなっていることから、特別支援学級を設置している小・中学校に調査研究のための委員会を組織し、児童・生徒の実態を踏まえた採択候補を検討してまいりました。

本日は、選定資料作成委員会から各教科の調査結果を報告させていただきます。この報告も踏まえてご協議いただきたいと思います。説明は以上です。

○教育長（酒井 泰君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員（日野佳昭君） 今年、大日本図書が文部科学省から処分を受けているとの報道がありました。今回の小学校の教科書用図書の一覧には大日本図書が登録されていますが、問題はないのでしょうか。また近年、行政指導が入っている発行者もありますが、これについても、問題はないのでしょうか。

○教育指導担当主幹（濱田昌也君） まず、大日本図書でございますが、教科用図書検定規則第7条第2項の規定に基づき、令和5年度において教科用図書の検定審査不合格の対象とする種目として中学校用教科用図書の数学及び理科、そして保健体育とされております。令和6年度使用の小学校用教科用図書については検定に合格しておりますので、採択されることについては問題ございません。また、行政指導が入っている発行者につきましても、検定に合格しているものについては採択されることについて問題ございません。

○教育長（酒井 泰君） よろしいですか。ほかにごございませんか。

○委員（日野佳昭君） 全ての種目に関係することなのですが、ここで確認しておきたいと思います。前回の採択の時と異なり、全ての教科用図書で多くの二次元コードが採用されていると思いますが、二次元コードをどのように活用していくのか、また、子供たちが家庭でも使うことを想定しているのでしょうか。

○教育指導担当主幹（濱田昌也君） 二次元コードにつきましては、様々な活用目的がございます。例えば国語科におきましては、例えば教材の判読や教材文に関連する動画、算数では、基礎基本の定着に向けた練習問題、また、図形の動きが視覚的に分かるような工夫もされております。また、理科では実験の動画など、教科の学びを深めたり広げたりすることが

できるように期待されております。授業では、先生がプロジェクターに投影して全体指導をしたり、子供たちが課題解決に向けて自分で調べたり、また、既習の内容を振り返ったり、学び直したりするなど、個々の学習状況に応じて使用することを期待しており、可能となっております。

家庭での使用につきましては、授業の復習や予習、また、発展的に調べてみたいことなど、子供の主体性を醸成することも期待されており、授業において、子供たちが日常的にそうしたものを活用できるような力をつけていきたいと考えております。

○教育長（酒井 泰君） ほかにございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、小学校教科用図書の採択候補の選定について協議を行います。まず、各教科・種目の教科用図書の採択候補の選定方法について確認いたします。

発行者が3者以下の種目、国語、書写、社会、地図、音楽、図画工作、家庭については、各委員から1者を推薦していただきます。その結果、過半数となった場合は、当該発行者の教科用図書を採択候補といたします。同数となった場合は、同数となった発行者から再度1者推薦していただき、採択候補を選定いたします。

次に、発行者が4者以上の種目、算数、理科、生活、保健、英語、道徳については、第一候補及び第二候補として2者を推薦していただきます。その結果、第一候補で過半数となった場合は、当該発行者の教科用図書を採択候補といたします。過半数にならなかった場合は、第二候補の発行者を加味し、多数となった発行者を採択候補といたします。なお、それでも同数となった場合は、同数となった発行者から再度1者推薦していただき、採択候補を選定いたします。

このような方向で進めさせていただきます。ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 異議なしと認め、採択候補の選定方法については、ただいま説明したとおりといたします。

それでは、協議に入ります。まず初めに、国語の説明をお願いします。

○国語教科用図書調査委員長（忍足留理子君） 国語について報告いたします。着座のまま、失礼いたします。調査委員会での協議や教科の特性を踏まえ、発達段階に配慮した内容の工夫について、他教科や他学年との関連、系統性について、デジタルコンテンツの扱いについて、地域性についての4つの観点について報告いたします。

初めに、発達段階に配慮した内容の工夫については、児童の発達段階に応じて各単元で身に付けさせる力を明確にし、児童が見通しをもって学習できるようにすることが大切であるという意見がありました。光村図書については、高学年は、1年間の学びの見通しをもち、前に学んだことを振り返りながら、自ら学習を進めることができるよう、1冊で構成されています。教育出版については、1年上の教科書はスタートカリキュラムを意識し、スモールステップで構成され、「学年で学ぶこと」が明記されていて、児童が自分自身の到達点を意識して学習に臨めます。東京書籍については、1年上の教科書はスタートプログラムを意識しています。低学年では、写真と文を並べて記載しており、対応させています。

次に、他教科や他学年との関連、系統性については、教科の特性上、国語科で学習した内容が他教科や他領域で活用できるような内容が盛り込まれているかという視点で調査してい

ます。光村図書については、他教科や日常生活の場面で、国語科の学習の何がどのように生きるのかを「いかそう」で提示しています。例えば、4年上「都道府県の旅」では社会科、1年上「つぼみ」は生活科と関連しています。教育出版社については、話題・題材や言語活動など多様な観点から他教科の学習で活用できるように配慮しています。説明文では、理科・社会・総合との関連が各学年で見られます。東京書籍については、単元末に「生かそう」として身に付けた「言葉の力」を他教科で活用することを促しています。合科的、関連的な指導を行うことができる教材を取り上げています。観察記録、手紙の書き方、インタビュー等です。

デジタルコンテンツの扱いについては、数多い二次元コードが活用しやすいものになっているか、家庭学習に有効であるか等の視点で調査しています。光村図書については、二次元コードから活動の実写動画を視聴することができ、活動の様子をイメージしやすくなっています。特に、話すこと・聞くことでは、モデルの話合いの動画が提示されています。教育出版については、「まなびリンク」を設け、学習を広げられるようにし、二次元コードの中央にコンテンツの種類が示してあります。東京書籍については、二次元コードで単元導入の動画を見るなど、家庭でも活用できます。二次元コードを読み取ることで既習事項を振り返ったり、練習問題に取り組んだりすることができ、学習の個別最適化を図っているということでした。

最後に、地域性については、話すこと・聞くこと、読むこと・書くことのそれぞれの領域において、自分たちの住む町に関連付けて学習に取り組むことができるかという視点で調査を行っています。光村図書については、自分の住む町のよさを書く単元があります。4年上「お礼の気持ちを伝えよう」の文例のさくら祭りをくらやみ祭りと変えて、考えやすいということです。教育出版については、地域の行事について調べたりまとめたりする単元があり、地域のよさを推薦し、発表会やポスターづくりをする単元があります。東京書籍については、地域施設の利用に関連した教材を取り入れていました。

報告は以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長（酒井 泰君） 説明が終わりました。何かご質問はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、各委員より採択候補を挙げていただきます。まず、日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 光村図書は、学習のポイントが分かりやすく見通しが立てやすい。見やすい配置で、文章を書く学習がある。話し合う場面が多い。障害者に対する記述が多い。災害についての記述が多い。全体的な配置と色使いから読みやすいつくりと感じました。

東京書籍は、「見通す」「取り組む」「振り返る」「生かそう」と学習の進め方が分かりやすく、見通しが立てやすい。二次元コードを多数収録しており、2年生からは徐々に「見通す」として、何に注目して読み進めるかが理解しやすい。3・4年生からは「要約する」「まとめる」「伝える」と進み、「文章を書く」と、デジタル資料を効果的に使用している。5・6年生は「意見文を書く」「話し合う」と進み、丁寧なつくりと感じました。

教育出版は、最初に「たしかめよう」と学びの手引きがあり、見通しがもてます。障害者、災害についての記述が多い。授業計画を立てやすいつくりを目指していました。

以上より、光村図書を推薦したいと思います。

○教育長（酒井 泰君） 次に、平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 国語の学習では、言語活動を通して国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することが重要です。私は、以下の4つの理由から第一候補に光村図書を推薦します。

1、読むことの文種別作品数で説明的な文章と文学的な文章の作品数の割合のバランスがよく、詩や俳句、短歌などの数が多く扱われています。各作品の内容も充実していて、長年親しまれてきた作品とともに、今日的な課題を取り上げた作品が適切に盛り込まれています。こうした読み物教材を学ぶことにより、児童が筋道を立てて考える力や、豊かに感じたり想像したりする力を高めることが期待できます。2、話すこと、聞くことについて、例えば、質問・インタビューや学級での話し合いなどの言語活動を、各学年の発達段階に即して児童の身近な課題を取り上げて段階的に学習できるように構成されています。こうして国語科において言語活動の基本を学ぶことは、他教科や特別活動などにおける言語活動を充実することにつながり、主体的・対話的な学びの実現につながると期待できます。3、書くことを身に付けて高めていくために、各学年において、説明的な文章、実用的な文章、文学的な文章など、系統的に位置付けられています。例えば「もしものときにそなえよう」「みんなが使いやすいデザイン」「デジタル機器と私たち」など、現代社会における身近で重要な課題を扱う教材があり、児童が主体的に学びながら文章表現力を高めることが期待できます。4、1年生の入門期に、児童に身近な題材や想像力を膨らませるイラストなどを用いて、児童が楽しんで国語の学習に入っていけるよう配慮されています。また、2年生以上の巻頭で「国語の学びを見わたそう」を設定し、学び方や学習過程が分かりやすく示されています。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続きまして、増淵委員、お願いいたします。

○委員（増淵達夫君） 私は光村図書を推薦したいと思います。光村の教科書については、教材の後に「見通しをもとう」「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」という各段階を明示するとともに、着目すべき言葉や考えをまとめる観点などが示されています。こうしたことにより一定の指導水準を確保できるような編集上の工夫が見られると考えます。6年生の教科書では「『考える』とは」という題材で、3人の有識者による2ページ分の文章を読んだ上で、各々の論旨を読み取りながら児童が自らの考えをまとめる教材が置かれるなど、様々な視点から読解力の育成を図ろうという工夫が見られます。以上から光村図書を推薦したいと思います。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 次に、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私は教育出版を推薦したいと思います。教育出版は他社と比べましてボリューム感があって復習しやすいように感じました。また、ほかの教科とリンクした感じで、総合的な理解が深まりそうという印象です。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 最後に私の意見を申しあげます。私は光村図書を推したいと思います。学習指導要領に示されている主体的・対話的で深い学びを実現するための工夫として、單元ごとに学習の進め方が丁寧に記されており、児童にとって何を学ぶのか、そして、どのようにして学ぶのかが分かりやすく、見通しがもてるようになっていると思います。特に学習の見通しについては、「学習や生活の中で、見通しをもつ」「問いをもつ（一人でじっくり

り考える・みんなをよく考える)」、そして「振り返る」と、順序だてて児童が考えやすい、児童の思考を導く工夫がなされています。そして、単元ごとに「生かそう」という記述があり、他教科や日常生活の場面で、国語で学習したことをどのように生かすのかについて示されています。

読書については、とても大切にしている印象を受けました。全ての学年で図書室、図書館を取り上げるとともに、単元の学習と関連付けて、「この本読もう」という内容で関連する本の紹介があります。SDGsや障害がある人に対するテーマを幅広く取り上げており、多様性に配慮されていると感じました。

二次元コードから活動の実写動画を視聴することができ、活動の様子をイメージしやすくなっています。特に話すこと・聞くことでは、モデルの話し合いの動画が提示されていて分かりやすいと思います。こうしたことから光村図書を推したいと思います。

それでは、これまでの意見をまとめますと、光村図書が多数でありました。よって、国語の採択候補は光村図書とすることによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(酒井 泰君) 全員異議なしですので、光村図書を採択候補といたします。

続いて、書写の説明をお願いします。

○国語教科用図書調査委員長(忍足留理子君) 書写について報告いたします。調査委員会での協議や教科の特性を踏まえ、各学年の目標を達成するための工夫について、単元の構成について、表現についての3つの観点について報告いたします。

初めに、各学年の目標を達成するための工夫については、各単元で身に付けさせる力を明確にし、児童が見通しをもって学習できるようにすることが大切であるという意見がありました。光村図書については、導入、理解、確認、活用、振り返りの5段階の学習過程であり、習得と活用を繰り返しながら螺旋的に力を高められるような工夫がありました。教育出版については、学習の進め方(つかむ・考える、書く・確かめる、振り返る、生かす・広げる)が明記され、1時間の見通しがもてました。東京書籍については、教科書の最後に「書写のかぎ」というページを設けて、各学年の目標を明確にし、何を学ぶのか・身に付けるのか、それが達成できていたのか意識しやすくなっていました。

次に、単元の構成については、限られた指導時間数の中で系統立てた指導ができるような構成や分量になっているかという視点で調査しています。光村図書については、国語教科書と連動させて学習できるよう教材が工夫されています。さらに、1教材1目標として、学習を通して身に付ける力を教材名としています。教育出版については、単純なつくりの文字から段階的に難しくなるような配列になっています。東京書籍については、硬筆文字、毛筆文字ともに、簡明な字形・書き方のものから学べるようにしています。

最後に、表現については、教科の特性上、見開きですっきりとした学びやすいものとなっているかという視点で調査しています。光村図書については、情報を精選し、大切なことがひと目で分かる、すっきりとしたレイアウトになっています。教育出版については、お手本に中心点を明記し、文字の中心を捉えやすくしています。東京書籍については、低学年では、点画の書き方の特徴を動物の動きに合わせて理解できるように工夫されています。また、パターン化された学習の手順が見開きで分かりやすく表示されています。

報告は以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長（酒井 泰君） 説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員（山下和則君） 国語と書写の教科書が違うことで指導上の課題はありますか。

○国語科教科用図書調査委員長（忍足留理子君） 国語と書写の発行者が同じであることで、国語の教科書と連動させて学習できるように教材が工夫されていますが、各発行者とも各学年の目標を達成するための学習過程が工夫されていることから、発行者が異なることによる問題はございません。

○教育長（酒井 泰君） よろしいでしょうか。その他、ご質問はございますか。

それでは各委員より採択候補を挙げていただきます。まず、日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 光村図書は二次元コードで毛筆の穂先の向きが理解しやすく、毛筆の動きがよく分かります。点画の説明が丁寧。SDGsブックがあり、書写体操、整理体操も面白い。東京書籍は点画の説明が理解しやすい。筆記用具の説明がある。二次元コードが多い。「書写のかぎ」として書写のコツが示されている。教育出版は、朱墨を使用した穂先の位置により筆遣いが分かりやすい。巻末の「レッツトライ」で学習活動に生かす項目がある。「ここが大切」の項目があり、文字の配列や配置など理解しやすい。

以上より教育出版を推薦します。

○教育長（酒井 泰君） 次に、平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 書写の指導では、文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育んでいくことが重要です。そこで私は以下の3つの理由から光村図書を推薦します。

1、硬筆の学習が始まる1年生と毛筆が始まる3年生の巻頭に「スタートブック」として書写の基本がまとめて掲載されています。また、ほかの学年についても巻頭に「いつも気をつけよう」として、学習の進め方が掲載されていて、児童が主体的に学びながら基礎・基本を確実に身に付けられるように工夫されています。2、二次元コードを使用して学習の参考資料が用意されています。例えば、右手で書く人、左手で書く人へ配慮をした写真や動画、あるいは横画や縦画、左はらいや右はらいなど、筆遣いの動画を示して視覚的に理解できるように配慮してあります。3、手紙の書き方、リーフレットの書き方、インタビューメモの書き方など、国語学習と関連して学習できるように教材が工夫されています。さらに、新聞の書き方、都道府県漢字、ポスターづくりなど他教科の学習や生活においても書写の能力を生かしていけるような教材を取り上げています。以上から光村図書を推薦いたします。

○教育長（酒井 泰君） 続きまして、増淵委員、お願いします。

○委員（増淵達夫君） 私は光村図書を推したいと思います。書写は国語の中に位置付けられていますので、やはり国語の教科書と関連した教材が掲載されているということは学びやすいものではないかなと思いました。また、5年生では手書きの力に関する内容が掲載されていて、手書き文字の良さについても考えさせることができるような工夫がされていると思いました。以上から光村図書を推したいと思います。

○教育長（酒井 泰君） 続きまして、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私は光村図書を推薦したいと思います。字を書く姿勢を詳しく説明してありました。また、タブレット動画が見やすく、文字を書く姿勢、そういったものが

とても理解しやすかったです。以上です。

○**教育長（酒井 泰君）** 最後に私の意見を申しあげます。私は光村図書を推したいと思います。単元ごとに学習の進め方が示されており、児童が見通しをもって学習に取り組むことができる工夫が見られます。とめ、はらい、はね、折れ、曲がり、そりなどについては、硬筆、毛筆ともに低学年でもポイントが分かりやすく示されています。また、左利きの児童への配慮として、左手で書くときの手や用具の位置、書くときの姿勢を示した写真を提示しております。二次元コードでは右利き用に加え、左利き用の動画があります。

3年生では「毛筆スタートブック」として基礎を分かりやすく学ばせる工夫が見られるとともに、鉛筆と筆の持ち方の比較や用具の後片づけについて写真と動画で丁寧に説明されています。硬筆の指導に当たっての文例は、各教科の事例、例えば理科の月の見え方を使うなど、他の教科等との関連性も図られています。6年生の「書写ブック」は前学年までの学びを振り返り、書写での学習を日常生活に生かすとともに、基礎基本の定着につなげることができます。以上の理由から光村図書を推したいと思います。

それでは、ここまでの意見をまとめますと光村図書が多数でありました。よって、書写の採択候補は光村図書とすることよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○**教育長（酒井 泰君）** 全員異議なしですので、光村図書を採択候補といたします。

次に社会の説明をお願いします。

○**社会科教科用図書調査委員長（森嶋正行君）** 社会について報告いたします。調査委員会での協議や教科の特性を踏まえ、各学年の目標を達成するための工夫について、他教科や他学年との関連、系統性について、探究的な学習の3つの観点について報告いたします。

初めに、各学年の目標を達成するための工夫については、各単元で身に付けさせる力を明確にし、学習過程に「つかむ」「調べる」「まとめる」の後の発展的な学習の示し方の工夫や、児童が見通しをもって学習できるようにすることが大切であるという意見がありました。東京書籍については、「まなび方コーナー」で技能が身につくように丁寧に学習方法を示しています。日本文教出版では、学習活動の本文に「調べました」「話し合いました」で表現されています。教育出版では、3年生の初めのところに丁寧に導入のページと、6年生の終わりに中学へ向けての接続ページが設定されていました。

次に、他教科や他学年との関連、系統性については、副読本や資料集を活用する教科の特性上、学年間の接続や分量に配慮されているかという視点で調査しています。この観点については、各発行者とも振り返り活動を入れて次学年へ生かせるように配慮された、児童にとって読みやすく見やすいつくりとなっています。学習指導要領に示された各学年の目標及び内容を踏まえられています。選択課題のところは各発行者とも「どちらか選択」と大きく分かりやすく示していました。

最後に探究的な学習については、二次元コードから入るコンテンツの活用による個別に習得した知識・技能を活用し、さらに探究的に学習することで、児童の学びの深まりや知識の定着も図られるといった意見がありました。児童の興味・関心を引き出し、探究的な学びに向かえるような工夫がされているかという視点で調査を行っています。東京書籍については、「社会的な見方・考え方」と「まなびのポイント」の2つで進め方を示しています。日本文

教出版については、二次元コードから調べ学習が進められるようになっていきます。教育出版は、「社会的な見方・考え方」を働かせる部分に吹き出しに太字など目立つようになっていて、探究的な学びを進めやすくしていました。なお、SDGsについては、各社とも特設のページを組んであり、多様性への配慮もされて取り上げられていました。

報告は以上です。よろしくお願ひいたします。

○教育長（酒井 泰君） 説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員（平原 保君） 例えば、くらやみ祭りなど府中市のことが取り上げられている教科用図書があります。一方で、府中市のことが取り上げられていない教科用図書もあります。このことにより授業の展開や児童の学びに大きな影響はあるでしょうか。

○社会科教科用図書調査委員長（森嶋正行君） 教科書に府中市のことが取り上げられることで、児童の興味や関心が高まることが期待できますが、府中市では「わたしたちの府中」という副読本を活用しており、地域性を大切に学習が可能であることから、必ずしも教科書に府中市が掲載されていなくても問題ないと考えております。

○教育長（酒井 泰君） その他、ご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、各委員より採択候補を挙げていただきます。まず、日野委員、お願ひします。

○委員（日野佳昭君） 東京書籍は地域の暮らしをバランスよく全国から取り入れています。歴史編、政治・国際編と上下巻に分け、展望が理解しやすい。各ページに「つかむ」「調べる」「まとめる」があり、学習の進め方に見通しが立ちます。「学び方コーナー」で知識が深まります。5・6年生の別冊も特徴です。

教育出版は、原子力発電に関する記述が多い。関東が多い。鎌倉街道がある。学びの手引き、キーワードなどで「つかむ」「調べる」「まとめる」と項目で見通しが立てやすい。災害の記述が多いです。

日本文教出版は、キャラクターによりその単元の目安が分かる。色使いが目優しく、ページの構成配置で内容が分かりやすい。年表が見やすい。3年生の交通事故や事件につき、112ページから125ページまで府中市について記述があります。4年生の「未来につなげる」とコラムで、くらやみ祭り、多摩川を取り上げています。災害の記述が多い。具体的な町を題材にしている。戦争に関する記述が多い。原子力発電の記述が少ないなどです。

全体としては、竹島、尖閣諸島に関する記述に大きな差はありませんでした。北朝鮮に関する記述は、日本文教出版には核兵器の記述がありません。国旗・国歌に関する記述に大きな差はありませんでした。

以上より、教育出版を推薦します。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、平原委員、お願ひします。

○委員（平原 保君） 社会科では、社会的な見方、考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通してグローバル化する社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質能力を育むことが求められます。

私は、東京書籍を推薦します。初めに社会の見方、考え方及び学習の進め方が明示され、児童が問題解決するための学習に見通しをもって進められるように配慮されています。そして、各単元の学習過程を「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」として色分けしてあり、児童が社会的な見方、考え方を働かせて、問題解決に主体的に取り組むことができます。

また、対話的な活動や新聞づくりのまとめ方などが例示されていて、学習を深めていくことができるように配慮されています。こうした学習過程を通して、基礎基本の知識や技能を身に付けさせるとともに、思考力、判断力、表現力を育むことが期待できます。

次に、社会の今日的な課題、人権、福祉、環境問題などについて、多角的、多面的に考えられる教材がバランスよく配置されていると感じました。その中で、4年生「自然災害から暮らしを守る」、5年生「自然災害を防ぐ」、6年生「災害復興の願いを実現する」というページにおいては、我が国の自然災害に対して、国、関係機関、地域の人々の取組及び今後の備えについて、児童の気付きと問題意識を喚起できるように工夫されています。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、増淵委員、お願いします。

○委員（増淵達夫君） 私は日本文教出版を推したいと思います。日本文教出版の教科書は、本文記述の中に数多くの疑問や気付きの吹き出しが入っています。このことによって課題を見つけ、探究する流れを意識しながら学ぶことができる、そういった編集上の工夫があると思います。それから、国や地方公共団体の防災に関する取組については、東京都の事例を多く掲載しています。そのため、地方公共団体の役割を子供たちが具体的に理解することにつながると思います。以上から、日本文教出版を推したいと思います。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私は日本文教出版を推します。まず、児童同士の会話でカギ括弧等があるのですが、それがとても見やすかったです。府中市や近隣の都市のことが取り上げられ学習するにも注目しやすいのかなと思いました。また、全体的に教科書自体が見やすく、とても読みやすかった印象です。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 最後に私の意見を申しあげます。私は日本文教出版を推したいと思っています。社会科は、デジタルコンテンツについては3者とも工夫がなされ、内容と質がかなり高いものとなっており、甲乙つけがたいレベルとなっていると感じました。その中で日本文教出版は資料が豊富で多く、児童の様々な興味・関心に応じた学習にも動画等を活用できるようになっており、調べ学習が円滑に進められるようになっていくと感じました。

單元ごとの学習の進め方は、学習過程を「学習問題」「追究」「解決」「新たな疑問」「追究」「役立てる」と学習段階で区別して構成しており、他教科、他学年での既習事項を活用した学習活動ができるような工夫が見られます。さらに、対話的な学び、協働的な学びを促すページ構成となっていて、児童が他者とともに広く深く学ぶことができるような工夫が見られます。

なお、SDGsを取り上げたページにおいて、具体的な例示として関東地方や東京都が取り上げられています。特に府中市のくらやみ祭りが取り上げられ、郷土の森博物館館長の談話が掲載されるなど、児童にとってとても身近に感じる部分があることも特徴の一つとなっています。以上の理由から、日本文教出版を推したいと思います。

それでは、ここまでの意見をまとめますと日本文教出版が多数でありました。よって、社会の採択候補は日本文教出版とすることよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 全員異議なしですので、日本文教出版を採択候補といたします。

次に、地図の説明をお願いします。

○社会科教科用図書調査委員長（森嶋正行君） 地図について報告いたします。調査委員会での協議や教科の特性を踏まえ、各学年の目標を達成するための工夫について、他教科や他学年との関連、系統性について、表現についての3つの観点について報告いたします。

初めに、各学年の目標を達成するための工夫について、地図帳では、東京書籍では、自然災害に関するページが設けられています。さらに歴史に関する地図が掲載されていました。帝国書院では、各学年で学習する内容と関連させた場所を焦点化させて事例地が取り上げられていました。

次に、他教科や他学年との関連、系統性については、東京書籍では、全学年に対応している内容で地図上の情報量も多く、家庭科でも活用できる郷土料理の写真も入っていました。帝国書院では、他教科でも特に外国語にも活用できる特別な凡例や英語表記を入れているページがありました。

最後に、表現については、帝国書院では、平地は緑色に、台地は薄い茶色、山地は濃い茶色と5色に塗り分けられていて、地形や土地の高さが立体感のある仕上がりとなっていて見やすい表記をしていました。東京書籍では、絵や地名の大きさが大きく見やすい表記であり、都道府県名は赤字に白枠加工してあり目立つようになっていました。

報告は以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長（酒井 泰君） 説明が終わりました。何かご質問はございますでしょうか。

○委員（平原 保君） 地図帳は3年生から6年生まで4年間使用しますが、4年間を見通した配慮や工夫はどのようにされていますか。

○社会科教科用図書調査委員長（森嶋正行君） 3年生では、索引が使えるようにすることや、府中市の東京都における位置や市の形、府中市と東西南北に接する範囲の市の名前と位置、主な幹線道路と鉄道を学ぶ中で地図に親しめるようにしています。

4年生以降は、学年の目標に沿って多摩川と河岸段丘の地形、東京都の形と日本における位置、日本の主な幹線道路と鉄道、東京都や日本の山地と低地や島しょの名前と位置、日本の周りにある国々と国境の位置などを地図で確認する時間を確保するようにしています。

○教育長（酒井 泰君） ほかにございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、各委員より採択候補を挙げていただきます。まず、日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 帝国書院は、各地域をバランスよく掲載しています。SDGsでパラスポーツを紹介している。地図が多く、大きさや色使いなど見やすい地図でありました。東京書籍は、西日本の情報が多い、地図の記号が多い、内容が豊富、字が大きい、災害を多く入れている、情報量が多いなどの特徴がありました。

以上より、各学年を通して使用する上で、帝国書院を推薦いたします。

○教育長（酒井 泰君） 続きまして、平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 地図帳は、3年生から6年生まで4年間使用するものであり、親しみを持ち、効果的に活用する技能や意欲を育てることが大切です。さらに、生涯を通じて日常的に地図帳を活用できる知識や技能を身に付けることができるようにすることが期待できます。そこで私は、帝国書院を推薦します。その理由は、以下の5点あります。

1つ目、巻頭に地図帳の使い方が12ページにわたり丁寧に分かりやすく示されています。このことから各学年の児童が楽しみながら地図について理解したり活用したりできるように

なっています。2つ目、児童にとって見やすい表現となっています。例えば、A4判見開きページの表記で大きく見やすい。特産物は文字と絵で表記されている。各地の名産品や観光地などのイラストが豊富で、楽しく親しみやすい。東京都全体が分かりやすく表記されていて、府中市の位置も分かりやすく、府中の森公園、大國魂神社などの表記もなされています。3つ目、児童が主体的に学ぶように工夫されています。例えば、「地図マスターへの道」の問題を参考にすれば、自分で課題を発見し、解決できるようになっています。4つ目、後半のページは、各単元に合わせた資料、日本の自然、自然災害と防災、日本と世界の結びつき、日本の歴史など、分かりやすく豊富な資料が掲載されています。5つ目に、表紙、背表紙ともにコーティングされていて、4年間使用に耐える丈夫な製本であるということが理由です。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、増淵委員、お願いします。

○委員（増淵達夫君） 地図は3年生からということですので、情報の精選、分かりやすさということが大事だと思います。そういった観点で、私は帝国書院を推したいと思います。冒頭の「地図のルール」については、精選された内容が余白を十分確保して分かりやすく表示されていると思いました。「地図マスターへの道」のコーナーでは、地図を用いた課題が設定されていて、地図を活用する技能の育成を図るための配慮がなされていると思いました。以上から、帝国書院を推したいと思います。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私は帝国書院を推薦したいと思います。全体の日本地図から各都道府県に拡大したときも理解がとてもしやすかったです。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 最後に私の意見を申しあげます。私は帝国書院を推したいと思います。3年生で扱う内容はふりがなも多くし、分かりやすくするとともに、大きく見やすいページを最初の方に多く配置し、児童が無理なく学ぶことができる工夫が見られます。地形を示すページでは、土地の高さにより色分けと手書き風の表現を組み合わせた立体感のある地図表現にし、見やすくする工夫が見られました。また、「地図マスターへの道」という地図に関連する学習をクイズ形式で掲載しており、児童が自ら学習内容を確認できるとともに、発展学習にも役立つ工夫が見られます。地図の色合いが鮮やかで大変見やすくなっており、また、文字の表記が大変読みやすいものとなっています。デジタルコンテンツも多種多様で、ドローンを使って撮影した映像や国土の四季の動画など、豊富なコンテンツで、児童の興味・関心を引き出したり、発展的な学習にも活用できる工夫が見られます。以上の理由から、帝国書院を推したいと思います。

それでは、これまでの意見をまとめますと、帝国書院が多数でありました。よって、地図の採択候補は帝国書院とすることによろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 全員異議なしですので、帝国書院を採択候補といたします。

次に、算数の説明をお願いします。

○算数教科教科用図書調査委員長（渡邊和子君） 算数について報告いたします。調査委員会での協議や教科の特性を踏まえ、各学年の目標を達成するための工夫について、単元（教材）の構成について、基礎・基本の定着についての3つの観点について報告いたします。

初めに、各学年の目標を達成するための工夫については、それぞれの学年での算数の知識や技能を確実に習得することが次の学年での土台となる既習事項となるので、各学年の目標を達成するために工夫がされていることが大切であり、いずれの教科書も学年の目標を達成するための工夫が見られました。東京書籍は、1時間ごとの「めあて」と「まとめ」が記載されているため、学習活動が見通ししやすいです。大日本図書は、1時間の流れが帯で書かれており、学習活動の見通しが立てやすいです。学校図書は、毎時間の「めあて」と「まとめ」が分かりやすいです。教育出版は、見通しをもって学習を進め、振り返りにも配慮されています。啓林館は、1時間の「めあて」「まとめ」がはっきりして学習活動が見通ししやすいです。日本文教出版は、毎時間「めあて」と「まとめ」が記載されていて、分かりやすいです。

次に、単元(教材)の構成について、児童にとって、それぞれの学年で身に付けるべき知識・技能が確実に習得できるかどうかという点において、その単元の構成が適切であるかどうかは大事な視点であり、いずれの教科書も単元の構成が適切になされていました。東京書籍は、学習した内容を次の単元でも生かして考えたり活用したりすることができるように、単元の配列が工夫されていました。大日本図書は、前の単元の学習を生かして学習が進められ、後の単元のつながりも分かるように工夫されています。学校図書は、既習事項を生かし、学習内容が進められる配列になっています。教育出版は、前単元の学習を生かして本単元の学習ができるよう、単元の配列が工夫されています。啓林館は、単元の構成が適切です。日本文教出版は、導入で既習事項を確認し、本単元の学習がスムーズにできるよう工夫されています。

最後に、基礎・基本の定着については、算数科の目標には「数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする」があり、教科の目標を達成する上で必要な内容であると考え、調査を行いました。東京書籍は、適切な問題数で、児童にとって基礎・基本の定着や習得のために効果的です。大日本図書は、既習事項の確認がデジタル教材でもできるようになっています。学校図書は、巻末の補充問題があり、量も難易度も適切です。教育出版は、問題が実生活に即しており、児童が場面をイメージしやすくなっています。啓林館は、共通の分度器を付録につけることで、基礎・基本の一斉指導をしやすくしています。日本文教出版は、本単元の学習と巻末の練習問題が連動していて、基礎・基本の定着に効果的です。

報告は以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長(酒井 泰君) 説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員(増淵達夫君) 2点お願いします。まず1点目ですが、算数は習熟の差が明確になる教科であり、多くの学校で習熟度別の指導をしていると思いますけれども、習熟度別の指導を行うことを前提とした場合、先生方にとって指導しやすい教科書とは、どういう編集上の工夫がみられるものなのか教えてください。

2点目ですが、算数の指導に当たっては、日常の事象を数理的に捉え、算数の問題を見出すことなどの指導が求められていますが、この観点を踏まえると先生方はどのような教科書編集上の工夫を求めるのか、以上2点を教えてください。

○算数科教科用図書調査委員長(渡邊和子君) 1点目の習熟度別指導を前提にした場合の

指導しやすい教科書についてですが、教科書には学習問題として例題や類題、演習問題が掲載されていますが、それぞれの問題に基礎、標準、発展など難易度が明示されていることで、児童は目標をもって学習問題に取り組み、指導する教員にとっても指導目標を明らかにして指導ができると考えられます。また、多くの類題が掲載されていることで、反復して問題演習を行い、定着が図れると考えています。類題の解答についても、ポイントになる部分については詳細な解説であると家庭学習の課題として指導しやすいと考えています。

2点目の、日常の事象を数理的に捉え、算数の問題を見出すことなどの指導について教科書に求める工夫ですが、単元の導入で生活場面から数理的な事象を見出すような具体的な場面が提示されていると、児童が学習の見通しをもちやすく、算数を学ぶ意味を感じやすく、主体的な学びにつながると思います。また、単元の終末において単元を通して学習した内容を基に再度生活場面に引き付けて考えることができるような設定がされていると、日常の事象と算数の学習を結びつけた指導がしやすいと思います。

○教育長（酒井 泰君） その他、ご質問はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、各委員より採択候補を挙げていただきます。まず、日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 東京書籍は、体積計算など中学の数学につながる記述がある。個人的には6年生巻末の「算数卒業旅行」が面白かった。国際コース、和算コースがあるのも面白い。分数、割り算、小数点が丁寧である。大日本図書は、プログラミング教育が多い。データの分析から活用まで工夫されている。二次元コードを多く使用し、絵が多く見やすい。学校図書は、2年生で九九を掲載。3年生で割り算、掛け算。デジタルコンテンツが多い。練習問題が多い。体積の考え方が分かりやすい。中学につながる三角錐計算がある。教育出版は、分数、割り算、小数点などのつまずきの説明が丁寧。体積の考え方が分かりやすい。6年生巻末の「数学へのとびら ステップアップ算数」で中学校への接続に工夫が見られる。啓林館は、学習で活用する教材が多い。四角錐の容積がある。3年生で九九を掲載。作図、図が多い。日本文教出版は、2年生下で九九を掲載。デジタルコンテンツが多い。「もっとジャンプ」など練習問題が多く、中学につながる。

以上より、第一候補に東京書籍を推薦します。第二候補は学校図書です。

○教育長（酒井 泰君） 次に、平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は、第一候補に東京書籍、第二候補に教育出版を推薦します。

第一候補の東京書籍を推薦する理由は次の5点からです。1つ目、問題解決の過程を重視してあり、各単元における大切な視点が示されています。児童が既習事項を生かして問題を解決できるように、具体物、絵や図、数直線、表やグラフなど、活用しやすいように丁寧に扱われています。2つ目、1年生「はじめよう算数」はA4判でレイアウトが見やすく、図やイラスト、書き込むスペースも大きく、1年生の児童が教科書に書き込みやすいように配慮されています。算数の入門期における1年生が算数に親しみやすいように工夫がされていると感じます。3つ目、2年生以上の学年では、「学びのとびら」に問題解決の学習について明示されていて、児童が算数の学習に見通しをもって取り組めるようになっています。4つ目、「マイ算数ノート」ではノート作りの基本や工夫の仕方が示されており、児童が算数の学習を着実に積み重ねていけるように工夫されています。5つ目、教師にとって、各単元で問題解決の過程において児童に育てたい資質・能力を押さえた授業づくりに有効活用でき

るように構成されています。

次に、教育出版を推薦する理由です。問題解決の過程を重視した教科書であり、上巻の初めに、「みんなで算数をはじめよう」として、児童に分かりやすいように問題解決の過程を示してあります。また、算数で使いたい見方・考え方を具体的に示してあり、児童が問題解決の手がかりとして活用できます。さらに、各単元において、児童が既習事項を生かして問題解決できるように、具体物、テープ図や数直線、表やグラフなどが活用しやすいように丁寧に扱われています。中でも数直線図の使い方に、低学年における数の線の仕組みから段階的に丁寧に扱っていて、上学年でも数直線図の書き方が分かりやすく示されています。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、増淵委員、お願いします。

○委員（増淵達夫君） 私は、第一候補は教育出版を推したいと思います。平均値や中央値、最頻値、階級など中学校から移行された内容について着目点をイラストで紹介しながらゆとりある文字量で記述されていて、章末には、児童の活動につなげながら学習できるような工夫がなされていると思います。また、ねらい、まとめだけではなくて、問題を「つかむ」「話し合って深める」「振り返ってまとめる」「比べてつなげる」「広げて考える」など、学習の流れが分かりやすく表記されています。さらには「分数で考えよう」など、学習したことを活用する教材がほぼ全ての学習分野にバランスよく置かれているというように思います。以上から、第一候補を教育出版としました。

第二候補としては学校図書を推したいと思います。同じように中学校から移行された平均値等の扱いですけれども、イラストの導入、それから、めあて、内容、まとめと進みながら、キー概念である平均値や代表値などの記述箇所がページの横に記載されており、児童が自ら学習する際に活用できるような配慮がされていると思いました。また、各単元の練習問題の数がほかの教科書よりも多いと感じます。難易度も易しい問題から難しい問題までバランスよく配置されていると思いました。以上から、第二候補を学校図書としました。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私は、第一候補を教育出版としました。まずは身近なものを使って学習できる工夫がされており、算数がとても身近に感じられると思いました。また、タブレットの使用等で理解しやすい構成になっていると思いました。

次に、第二候補として東京書籍です。全体的に見やすく、図の説明も丁寧でとても理解しやすかったです。また、基礎から応用につながる感じも受けました。学習を発展させやすいと感じました。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 最後に私の意見を申しあげます。私はまず東京書籍を推したいと思います。1時間ごとの「めあて」と「まとめ」が記載されているため、児童にとって学習活動の見通しをもちやすく、学習に取り組みやすい工夫がなされています。また、単元の最後に「できるようになったこと」「次に考えたいこと」を示し、振り返りと学習の継続性に配慮したつくりとなっています。他教科との関連や教科間のつながり、前学年と後の学年の系統が分かる観点を意識できるように工夫されています。学習した考え方を生かして、対話しながら学習を深める構成が組み込まれていて、児童にとって自らの考えを再構築するのに効果的であると感じます。二次元コードを読み取ると動画で考え方や単位の書き方が分かる

ようになっていて、習熟に時間を要する児童も理解しやすい工夫が見られます。巻末に「補充の問題」「おもしろ問題にチャレンジ」があり、補充学習や発展的な学習に対応できるような工夫があります。

次に推したいのは教育出版です。単元の導入部分が児童の生活に関連するものを取り上げており、身近な問題として算数の学習に取り組む工夫があります。また、発達段階に応じて書き込み部分が工夫されており、児童の思考の流れを大切にした構成となっています。各単元に発展的な課題や次の学年の学習内容につながる課題が配当されているのも工夫の一つだと感じました。巻末に自分で取り組むページが設定されており、復習と発展的な学習に活用できる工夫が見られます。

以上のことから、第一候補として東京書籍、第二候補として教育出版を推したいと思えます。

それでは、これまでの意見をまとめますと、第一候補において東京書籍が多数でありました。よって、算数の採択候補は東京書籍とすることよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(酒井 泰君) 全員異議なしですので、東京書籍を採択候補といたします。

次に、理科の説明をお願いします。

○理科教科用図書調査委員長(南條吉男君) 理科について報告いたします。調査委員会での協議や教科の特性を踏まえ、各学年の目標を達成するための工夫について、他教科や他学年との関連、系統性について、探究的な学習について、デジタルコンテンツの扱いについての4つの観点について報告いたします。

初めに、各学年の目標を達成するための工夫について、単元のねらいや目標、学習活動が分かりやすく示されているかという視点で調査しました。学校図書では、単元の初めに調べていくことや考えていくことが呼びかけられており、見方・考え方を働かせた児童の発言例も示されていました。啓林館では、最初の実験単元で条件制御の仕方を詳しく解説し、次の実験で活用できるように内容をまとめていました。また、問題解決の学習の進め方を、キャラクターを使いながら説明していました。教育出版では、問題解決の学習の進め方を児童のキャラクターの言葉を書きながら具体的に説明していました。また、児童や先生の発言例もあり、学習の流れが分かりやすくなっていました。東京書籍では、最初の実験単元で条件制御の仕方を詳しく解説し、次の実験で活用できるように内容をまとめていました。また、問題解決の学習の進め方を1ページに大きく説明していました。大日本図書では、当該学年で育てたい力を巻頭で解説していました。また、最初の実験単元で条件制御の仕方を詳しく解説し、次の実験で活用できるように内容をまとめていました。

次に、他教科や他学年との関連、系統性については、他教科との関連、既習事項を活用した学習活動や日常生活とのつながりを意識した学習活動がどのくらい工夫されているかという視点で調査しました。学校図書では、単元の最初のページに、関連する他学年の単元やほかの単元が書かれていました。さらに他教科の内容が想起できるようにも示されていました。啓林館では、生活との関わりについて「くらしとリンク」というコーナーで紹介していました。また、「算数のまど」など、算数との関連ページもありました。教育出版では、単元の最初のページに他学年との学習のつながりが表記されていました。また、「算数とのつなが

り」など他教科との関連の項目もありました。東京書籍では、「たしかめよう」のページで、下学年の学習や経験を想起させるための二次元コードや図などが掲載されていました。また、学習した内容が端的にまとめて掲載されていました。大日本図書では、巻末に「理科の学びに役立てよう」があり、他教科や他学年の学習との関連が分かりやすい構成になっていました。また、既習内容を基にして予想できるつながりのある構成になっていました。

次に、探究的な学習について、児童一人一人に応じた探究的な学習活動の充実のためにどのような工夫が図られているかという視点で調査しました。学校図書では、「もっと知りたい」のコーナーで、学んだことが生活の中でどのように生かされているか記載されていて、児童の興味を広げる資料もありました。啓林館では、単元の最後に、学習したことに関連した生活の中での活用や自然事象が記載してありました。また、活用の場面で探究的な学びになるような紙面構成にもなっていました。教育出版では、学習事項が生活の中でどう活用されているかなど、「科学のまど」「広がる科学の世界」で紹介されていました。また、単元構成が問題解決の流れになっているので、探究的な学習に取り組みやすいページ構成になっていました。大日本図書では、「学びをリンク」というコーナーで、学んだことが日常生活で活用されている資料が豊富に紹介されていました。また「記録と整理の仕方」では、数値や写真などの様々なまとめ方が提示されていました。

最後に、デジタルコンテンツの扱いについては、様々な画像や動画、数値のデータなどが閲覧できる二次元コードの活用や、タブレット端末等を効果的に活用して学習できる工夫がどのくらいされているかという視点で調査しました。学校図書では、二次元コードが多く掲載されていて簡単に視聴でき、NHKやほかのリンクの紹介も載っていて、様々な活用することができるようになっていました。啓林館では、デジタルコンテンツで実験計画のサポートなどをしていました。また、各実験に応じた解説動画も準備されていました。教育出版では、「まなびリンク」のコーナーで、道具の使い方や動植物の動画などがあり、導入や実験の場面で活用できるようになっていました。また、ICT機器の活用が想定される場面マークがついており、使用しやすいようにもなっていました。東京書籍では、デジタルコンテンツで映像や音によって自然事象が分かりやすく扱われていました。また、二次元コードからどのような話し合いが必要か分かる動画もありました。大日本図書では、二次元コードが多く掲載され、用具の使い方や実験の方法、動画などが視聴できるようになっていました。また、学年によっては、動植物が241種類も検索でき、生息地域も分かるような「生きもの図かん」もありました。

報告は以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長（酒井 泰君） 説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員（平原 保君） 理科の実験や観察を行う上で、安全が第一であると考えます。教科書選定委員会において安全配慮については何か話題になりましたか。

○理科教科用図書調査委員長（南條吉男君） 委員会においても、安全配慮については話題になっています。用具の扱い方や実験の方法が動画などで視聴できるようになっていることや、実験での安全への注意事項が色を変えるなど明確に書かれていることで、安全に配慮した実験や観察が行いやすいといった意見が出ました。

○教育長（酒井 泰君） その他ご質問はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、各委員より採択候補を挙げていただきます。まず、日野委員、お願いします。

○委員(日野佳昭君) 東京書籍はデジタルコンテンツが多い。問題からまとめまで理解しやすいつくり。字、写真が大きくきれいで、詳細な解説で学習する見通しが立てやすい。大日本図書は「学びを生かそう」などで学んだことが役に立つ、理科の有用性を実感するつくりとなっている。デジタルコンテンツに図鑑がある。問題から結論までの流れがあり、字、写真が大きく学習しやすい。学校図書は、デジタルコンテンツが多い。「もっと知りたい」「やってみよう」「振り返ろう」等の項目で、学びの活用の記述が豊富である。教育出版は、問題から結論まで全体的に問題解決の流れで学びやすい印象。「科学のまど」で日常生活のつながりがある。啓林館は、問題からまとめまで学習の進め方が全体的に学びやすい印象。「暮らしとのリンク」の内容が多数ある。

以上より、第一候補に東京書籍、第二候補に啓林館を推薦します。

○教育長(酒井 泰君) 次に、平原委員、お願いします。

○委員(平原 保君) 私は、第一候補に東京書籍、第二候補に教育出版を推薦します。

まず、東京書籍を推薦する理由は以下の5点です。1つ目、A4判で1ページの情報提示が見やすく構成されています。また、実験、観察の流れが整理されていて、児童にとって理科の学び方に見通しがもてるようになっていきます。教員にとっては授業の流れが把握しやすく工夫されていると感じました。2つ目、巻頭にある「理科の学び方」で、「問題をつかむ」「調べる」「まとめる」を用いて、理科の学習の進め方を見通しをもつことができます。また、各単元の学習を進める中で随時活用することもできます。3つ目、鮮明な写真と美しい絵で構成されていて、児童が理科の世界に興味・関心が持てると感じます。例えば、3年、チョウの育ち方の観察には、鮮明な写真に加え、ページのレイアウトも工夫されていて、児童の学ぶ意欲を高める工夫がされています。4つ目、各実験・観察に関して「きけん」という赤いマークで児童が分かりやすいように注意喚起してあり、十分な安全配慮がしてあります。5つ目、巻末資料「理科の調べ方を身につけよう」は、ノートの書き方や自然観察の仕方、実験器具の使い方など、基本的な技能を身に付けるために活用できると感じました。

次に第二候補の教育出版を推薦する理由です。1つ目、巻頭「学習の進め方」「ノートの取り方」は、年度当初における理科の学習で活用できます。2つ目、児童が身近な自然に主体的に関われるように、直接体験を重視した観察実験を行い、児童が実感を伴った理解がなされるように配慮されていると感じました。3つ目、各単元の初めに学習のつながりが示されていて、児童が他学年との関連や中学校への発展を見通して学習ができるように工夫されていました。そして4つ目、裏表紙、「理科の安全の手引き」は、児童が常時活用できて、各学年に応じた安全配慮がなされていると感じました。以上です。

○教育長(酒井 泰君) 次に、増淵委員、お願いします。

○委員(増淵達夫君) 私は、第一候補を東京書籍、第二候補を教育出版としました。

まず第一候補の東京書籍については、3年生から6年生までの全ての教科書に「理科の調べ方を身につけよう」というページがまとまって配置されています。このことによって理科の重要な技能が整理されて容易に検索できる工夫が施されていると思います。それから、問題把握、予想、計画、観察・実験、考察という流れが分かりやすく示されているとともに、理科の世界探検部というページでは、学習内容と自然や社会、人との関わりにつなげること

ができるような編集上の工夫がされていると思いました。

次に、第二候補の教育出版については、まず、問題の提示、予想しよう、計画しよう、実験、結論という問題解決の流れが詳細に記述されています。そして、学習前と学習後にどのように考えが変化したのかを児童が振り返ることができるような記述や、さらなる学びにつながるメッセージなどが掲載されていて、何ができるようになったかということを児童自身が自覚できるような工夫がされていると思い、第二候補としました。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 次に、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私は、第一候補として教育出版を推したいと思います。絵や写真の説明が細かく詳しくだったので、とても理解しやすかったです。また、一連の流れがつかみやすく、とてもスムーズに頭の中に入ることができました。

次に、第二候補として啓林館を推したいと思います。「まとめノート」はとても参考になり、次の学習につなげやすいと感じました。また、実験等の説明が丁寧であり、安全面にとっても考慮されていると感じました。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 最後に私の意見を申しあげます。私はまず東京書籍を推したいと思います。学習内容が精選され、大きな文字や写真を駆使した表記で、児童にとって分かりやすいものとなっています。特に問題解決の学習の進め方を端的に示しており、児童が理解しやすいものとなっています。單元ごとに身に付けなければならない内容を「ふりかえろう」としてまとめて表記してあります。初めての実験方法や観察などが丁寧に記載されていて、発達段階にも合っていると思います。

また、児童が話し合いにより学習を進めやすくする工夫として、写真や表の資料が示されており、実際の実験場面と照らし合わせることでより理解が深まるようになっています。自然事象について資料が多く、しかも大きく記載されていて、川や花、メダカなど実際に見られない場合でも教科書を通して学ぶことができるようになっています。また、「広げよう理科の発展」という内容で探究的な学びを促す工夫も見られます。

次に推したいのは啓林館です。「くらしとリンク」というコーナーで生活との関わりについて紹介されており、学習内容と日常生活の関わりについて意識させる工夫が特徴となっていると思います。問題の提示と解決方法の例示に工夫が見られ、主体的な学びができる導入により問題意識が高まるとともに、実際の考察の際に、他のグループの結果も参照するようにとの記載もあります。対話的な学びの例が導入から出ていて分かりやすくなっていると思います。活用の場面で探究的な学びを意識した紙面構成となっているのも特徴です。單元ごとに身に付けなければならない内容を「まとめノート」としてまとめて表記されています。

以上のように、第一候補として東京書籍、第二候補として啓林館を推したいと思います。

それでは、これまでの意見をまとめますと、第一候補において東京書籍が多数でありました。よって、理科の採択候補は東京書籍とすることでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 全員異議なしですので、東京書籍を採択候補といたします。

それでは、ここで一旦定例会を中断いたしまして、10分間の休憩を取りたいと思います。再開はこの会場の時計で15時12分としたいと思いますので、よろしく願いいたします。

午後3時02分中断

◇
午後3時12分再開
◇

○教育長（酒井 泰君） それでは、定例会を再開いたします。次に、生活の説明をお願いします。

○生活科教科用図書調査委員長（堀 誠一君） 生活について報告をいたします。調査委員会での協議や低学年児童のみが学習する教科の特性を踏まえ、児童の発達段階を配慮した内容の工夫について、他教科や他学年との関連、系統性について、主体的な学びの3つの観点について報告いたします。

初めに、児童の発達段階を配慮した内容の工夫については、低学年という発達段階に即した内容になっていて、児童の興味・関心を引き出す工夫がなされていることが重要であるという意見が出されました。東京書籍については、活動例が豊富で、児童が活動を選択できる。観察カードの例示があり、児童が活用しやすい。大日本図書については、低学年児童でも「気持ちマーク」の記入により、無理なく活動の振り返りができるように配慮されている。学校図書については、小単元が見開きで構成されているため、一目で学習の順序が分かる工夫がされている。教育出版については、質問の仕方や道具の使い方、乗り物の乗り方等の具体例が掲載されており、低学年児童が活用しやすい配慮がされている。光村図書については、イラストや解説が随所にあり、絵本を手取るように低学年児童にとって親しみやすい工夫がされている。啓林館については、低学年児童の興味・関心を引き出す活動の様子が写真やイラストで紹介されている。以上、各社の調査内容でした。

次に、他教科や他学年との関連、系統性について、低学年の学習で習得した知識・技能が中・高学年の学習に系統立てて生かされていくことが欠かせない視点であるとの意見がありました。そこで、他教科や他学年の学習との関連、系統性が工夫されているかという視点で調査を行いました。東京書籍については、理科や社会、総合的な学習の時間へとつながっていく系統性が掲載されていることや、各教科との関連を図った学習活動例が随所に掲載されている。大日本図書については、人との関わりや生命や自然などの道徳の内容項目と関連している。他教科との関連が深いところは、関連が分かるマークが入っていて工夫されている。学校図書については、全ての単元において、話す、聞く、書くなどの国語科の要素を重視した活動となっている。教育出版については、特設ページが設けられており、理科や社会科の学びにつながっている。虫や植物が詳しく取り上げられており、理科との関連が図られている。光村図書については、道具の使い方や生き物の世話の仕方が詳しく説明されており、他教科との関連が図りやすくつくられている。啓林館については、キャリア教育の視点がイラストで掲載されているなど、生活科と他教科等への連携を意識したつくりになっている。以上、各社の調査内容でした。

最後に、主体的な学びについては、低学年児童は明確な見通しをもつことは難しい発達段階にあるという意見がありました。児童の願いの実現に向けた工夫がされているか、活動への意欲を引き出す工夫がされているかという視点で調査を行っています。東京書籍については、板書例が具体的に示されており、主体的な学びの視点から教師が授業の構成を考えやすい工夫がされている。大日本図書については、原寸大のアサガオが掲載されており、自分の

育てているアサガオと比較するなど児童の意欲を引き出す工夫がなされている。学校図書については、キャラクターのイラストや吹き出しから、自分もやってみたいという活動意欲を引き出せるように工夫されている。また、前時の学習を踏まえて本時の課題が提示されているため、児童が意欲を持って主体的に活動に取り組む工夫がされている。教育出版については、学習の見通しをもたせるための配慮があり、児童の試行錯誤を促し、主体的な学びにつなげる工夫がされている。光村図書については、低学年児童にとって学習の流れをつかみやすく、別冊資料は児童の主体的な学びを支える内容となっている。啓林館については、身近な生活に関わる見方・考え方を十分に生かしながら主体的に学べるように工夫されている。以上、各社の調査内容でした。

報告は以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長（酒井 泰君） 説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員（日野佳昭君） 生活科は3年生からの理科や社会とのつながりが大切だと思いますが、系統的な指導ができるようにするために、どのような工夫がされているでしょうか。また、理科と同じ発行者のほうがよいのでしょうか。

○生活科教科用図書調査委員長（堀 誠一君） 地域への愛着を持たせるねらいで学習した生活科の町たんけんが社会科では地域を知ること、地域参画への意識づくりとつながっていくように工夫がされています。また、生活科で体験した季節遊びやおもちゃづくりが理科での科学的な見方、考え方への素地となっており、社会や理科との系統的な指導ができるよう工夫されています。

理科と同じ発行者のほうがよいかというご質問については、各発行者とも各学年の目標を達成するための学習過程が工夫されていることから、発行者が異なることで問題はございません。

○教育長（酒井 泰君） その他、ご質問はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、各委員より採択候補を挙げていただきます。まず、日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 東京書籍は、写真、図が綺麗。動くおもちゃの作り方がよく分かる。大日本図書は、人物の吹き出しで学習のポイントを分かりやすく説明。学校図書は、「ありがとうがいっぱい」の項目がある。「みんなのいいところを見つけよう」の項目があり、大事なことと思います。教育出版は、「げんきにすごそう」との言い方が低学年に大切。写真が多く、各単元配置に工夫があり理解しやすい。安全教育が丁寧。光村図書は、写真が多く使われ、親しみやすくつくられている。啓林館は、健康・安全の項目が理解しやすい。動くおもちゃの作り方がよく分かる。各単元配置の目的からの構成がよい。

以上より、第一候補を学校図書、第二候補は啓林館を推薦します。

○教育長（酒井 泰君） 次に、平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は、第一候補として東京書籍、第二候補として教育出版を推薦します。

まず、第一候補の東京書籍を推薦する理由についてです。第1に、入学当初の学校生活が「どきどきわくわく1ねんせい」に掲載され、入門期への配慮が十分になされていると感じました。第2に、写真やイラストが豊富で、レイアウトも工夫され、児童が見やすく、興味・関心を引き出し、活動への意欲を喚起することが期待できると感じました。また、児童

の写真に吹き出しがあり、活動する中での感想や思いが描かれていて、児童の気付きを促していると感じます。第3に、巻末資料の活動便利手帳は、安全に活動したり学習を深めたりするための大切なポイントがまとめられていました。児童が活動することで、主体的・対話的で深い学びを促すことが期待できます。また、原寸大のいきもの図鑑は、児童の気付きや発見を促す便利な資料であると感じます。

次に第二候補の教育出版を推薦する理由は以下の3点です。第1に、サイコロ（6面体）のイラストを用いて、6つの力「気づく」「自分でできる」「考える」「伝える」「挑戦する」「自信を持つ」の視点から、各活動のめあてを焦点化して明示してあります。児童がイメージしやすく、保護者にも6つの力の大切さを発信しています。第2に、巻末資料「学びのポケット」は、他教科の学習との関連性を明示して、調べ方、記録の仕方、伝え方、用具の使い方、学び方のポイントが明示してあります。児童が活用することで主体的・対話的で深い学びを促すことが期待できます。第3に、タブレットを使っている写真があるため、児童がタブレットを活用しやすいように工夫されています。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、増淵委員、お願いします。

○委員（増淵達夫君） 私は、第一候補を東京書籍、第二候補を光村図書と考えています。

まず、第一候補、東京書籍を推す理由は、安全や健康に関する事項が巻末にまとめて掲載されていて、「何に気をつければいいのか」という問いかけによって、児童が自ら考えることができるような工夫がされていると思います。それから、スタートカリキュラムの箇所や夏に関する内容に関するページには「保護者の皆様へ」の記述があり、学校と家庭との連携が図れるよう配慮されていると思いました。

第二候補の光村図書を推す理由は、「保護者の皆様へ」の欄が多く設定されていて、家庭に協力を求めたい具体的な事項が示されています。それから、植物や昆虫の写真が上巻の巻末に置かれていて、児童の興味・関心を高める工夫が施されていると思いました。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私は、第一候補を教育出版としました。黒いキャラクターがナビゲーターとなっていて、学習へうまく誘導していると感じました。また、身近なものを取り上げており、親近感から学習につながると感じました。

続きまして、第二候補としまして啓林館としました。啓林館のものはそれぞれの説明にまとまりがあつてとても見やすかったという印象です。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 最後に私の意見を申しあげます。私はまず東京書籍を推したいと思います。写真及びイラストが大きく、焦点化されて掲載されており、児童の考えを広げやすい構成となっています。活動のめあてが児童にイメージしやすく記載されているとともに、観察カードの例示もあり、児童にとって活用しやすいものとなっていると感じました。気づいたことを表現し、児童同士が交流する学習活動の例示や、各教科との関連を図った学習活動の例示が随所に掲載されています。

続いて、第二候補として学校図書を推したいと思います。1つの小単元が見開きでつながりが分かる構成となっており、段階を踏んで学習できるよう工夫されています。また、写真が大きく分かりやすい紙面構成となっており、児童が学習に取り組みやすいと感じました。児童の間で学びを深めるための交流場面が示されていて、児童の活動のヒントになるように

構成されています。また、カードの書き方や観察の仕方を分かりやすい言葉で明示し、科学的な見方や考え方の基礎を育めるように配慮されていると思います。

以上の理由で、第一候補として東京書籍、第二候補として学校図書を推したいと思います。

それでは、ここまでの意見をまとめますと、第一候補において東京書籍が多数でありました。よって、生活の採択候補は東京書籍とすることによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(酒井 泰君) 全員異議なしですので、東京書籍を採択候補といたします。

次に、音楽の説明をお願いします。

○音楽科教科用図書調査委員長(渡邊妙子君) 音楽について報告いたします。調査委員会での協議や教科の特性を踏まえ、各学年の目標を達成するための工夫について、他教科や他学年との連携、系統性について、対話的な学び、協働的な学びについての3つの観点について、報告いたします。

まず初めに、各学年の目標を達成するための工夫についてです。音楽科では、各教材で学習のめあてを明確にして、児童が分かりやすく無理なく学習できることが大切であるという視点で2者の教科書を調査しました。教育芸術社については、歌唱技能や鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの演奏技能について、発達段階を考慮した学習過程や教材選定の配慮がされています。教育出版については、教材のめあてが目立つ場所に簡潔に示されており、児童にとって何を学習するかが分かりやすく示されています。

次に、他教科や他学年との関連、系統性についてです。音楽科では、児童が学んだことを活用し、その学びがつながるように、教材同士を関連付けて題材という一つのテーマが系統的に構成されています。具体的な他教科や他学年との関連性という視点で調査いたしました。教育芸術社については、社会科や総合的な学習の時間との関連が図れるように、郷土芸能や日本の民謡について調べ学習から実際の音楽へという工夫がされています。教育出版については、算数や理科と関連した「たんいの歌」や、歌唱を通して外国語に親しむことができる教材などが配置されています。

最後に、対話的な学び、協働的な学びについてです。習得した知識・技能を活用して、児童同士が対話したり協働したりして、学びの深まりや知識・技能の定着が図られるという視点で調査を行いました。教育芸術社については、児童間の対話的な学びの充実を図るために、学習のめあて達成に向けて児童に考えてほしいことや発言の例が発達段階に応じて具体的に示されています。教育出版については、例えば、歌唱教材で児童の気付きや思いを引き出すような教師の問いが示され、児童間で話し合ったり共有したりするなどして、深い学びにつながるような工夫がされています。

報告は以上です。よろしくお願ひいたします。

○教育長(酒井 泰君) 説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員(平原 保君) 音楽の指導は、多くの小学校において、低学年では学級担任が指導し、中学年から高学年になると音楽専科の教員が指導しているのが現状だと思います。そこで、学級担任が指導しやすいようにどのような工夫や配慮がされているのか、教えてください。

○音楽科教科用図書調査委員長(渡邊妙子君) 例えば、児童の主体的な学習に向けて、目

標や具体的な活動例やヒント、資料等が掲載されており、音楽的な見方、考え方を働かせながら学習を進められるように工夫されています。また、見開きごとに学習のねらいが明記されていたり、題材ごとの見通しや学び方、学び合いについても示唆されていたりします。さらに、児童が創造性を発揮して、言語活動や表現活動を活発に行えるよう豊富な活動が例示されていたり、楽曲の魅力についての気付きを書き留めたり意見交流したりする学習が設定されているなど、音楽専科の教員でなくても指導がしやすい工夫がされていると思います。

○教育長（酒井 泰君） その他ご質問はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、各委員より採択候補を挙げていただきます。まず、日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 教育出版は、1年生で動いて遊ぼう、リズムで遊ぶ。2年生で音の強さや速さから、音楽や歌の流れ。3年生で曲に合った歌い方、曲に合った演奏。4年生でさらに、旋律を作ろうが始まります。日本と世界の音楽がある。5年生では旋律作り、日本の楽器、和音や低音の働き、曲に合った歌い方、響きのある歌声、6年生で合唱からアンサンブルまで進む流れです。全体に、「音のスケッチ」で曲作りがあります。曲数が多い。巻末に「音楽ランド」がある。教育芸術社は、音符などの記号、音楽を使ったコミュニケーションが多い。紙面の構成がまとまり見やすい。郷土芸能がある。楽器の説明があり、また鍵盤ハーモニカ、リコーダーの使い方の説明が分かりやすいです。

以上より、教育芸術社を推薦します。

○教育長（酒井 泰君） 次に、平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は教育芸術社を推薦します。その理由は以下の5点です。

第1に、発達段階に応じて、音楽的な見方、考え方を働かせながら、学習を積み重ねて段階的に基本的な力が身につくように配慮されています。例えば、巻頭の学習マップ表示や低学年の図形楽譜やイラストの活用をはじめ、学年の歌唱技能や鍵盤ハーモニカ、リコーダーなどの演奏技能について、無理のない学習過程や教材選定が配慮されています。第2に、楽曲数が豊富であり、「みんなでたのしく」から学校や児童の実態に合った曲を選曲することができます。第3に、児童間の言語活動の充実を図るために、学習のねらい達成に向けて考えてほしいことや発言の例が発達段階に応じて具体的に示されています。第4に、学年ごとにキャラクターの発言により単元のポイントをつかみやすいようになっていると感じました。第5は、先ほど質問した点に関しますが、低学年など音楽を専門としない学級担任の教員が指導する際にも活用しやすいと考えます。以上の理由から教育芸術社を推薦します。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、増淵委員、お願いします。

○委員（増淵達夫君） 私は教育芸術社を推したいと思います。その理由ですけれども、各章に目標が明示されるとともに、みつける、考える、歌うなど学習の流れが分かりやすく示されていると思いました。また、6年生では、変声期の歌い方の工夫など、体の発達の段階に応じた具体的な配慮が見られます。以上の点から教育芸術社を推したいと思います。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私は教育芸術社を推薦したいと思います。楽器等の説明がとても丁寧で興味が湧きました。また、音楽についていろいろな角度での説明があり、とても身近に感じました。以上となります。

○教育長（酒井 泰君） 最後に私の意見を申しあげます。私は教育芸術社を推したいと思

います。歌唱技能や鍵盤ハーモニカ、リコーダーなどの演奏技能について、発達段階を考慮した無理のない学習過程や教材選定がなされており、初めて取り組む楽器については大きな写真を使い、演奏方法等が分かりやすく説明されています。単元のまとめでは、発展的な学習につなげていくためのヒントが示されており、探究的な学習も行えるように工夫されています。二次元コードが多くページに掲載されており、取り上げられている曲の動画や音源が豊富であるとともに、使用する楽器や曲想の違いによる聞き比べができるようになっています。このため、演奏技法の確認などの繰り返し学習や家庭学習でも活用できると思います。以上の理由から教育芸術社を推したいと思います。

それでは、ここまでの意見をまとめますと、教育芸術社が多数でありました。よって、音楽の採択候補は教育芸術社とすることよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(酒井 泰君) 全員異議なしですので、教育芸術社を採択候補といたします。

次に、図画工作の説明をお願いします。

○図画工作科教科用図書調査委員長(高橋伸嘉君) 図画工作について報告いたします。調査委員会での協議や教科の特性を踏まえ、各学年の目標を達成するための工夫について、表現について、探究的な学習について、デジタルコンテンツの扱いについての4つの観点について報告いたします。

初めに、各学年の目標を達成するための工夫については、図画工作の目標の1つである「つくりだす喜びを味わうとともに感性を育み、豊かな情操を培う」ためには、何よりも児童一人一人の感覚を高め、気付きを大切にすることが重要であるという意見がありました。その考えから、児童の気付きを引き出す工夫があるかという視点で調査いたしました。開隆堂については、児童の発想が広がるように、児童に気付いてほしいことを「～はどうか？」という疑問形式で掲載されていました。日本文教出版については、教科書だけで授業ができるよう、児童に気付いてほしいことを、写真の児童の吹き出しの形式で掲載してありました。

次に、表現については、書体や色の使い方等に見やすさに対する工夫があるか、という視点で調査いたしました。開隆堂については、情報量の多さの割には、紙面上のバランス配分が適切で見やすく、また、リード文が教科書体で見やすいという特徴がありました。日本文教出版は、題材表記は細いゴシックでカラフルな色で書かれてあり、文字の並び方は、傾斜や形と組み合わせてデザインされていました。また、題材名から内発的動機付けを高めようとしている工夫もされていました。

続いて、探究的な学習については、児童の好奇心や探究心を刺激することによって、より深い学びを可能にできると考えています。そこで、児童の興味・関心を引き出し、探究的な学びに向かえるような工夫がされているかという視点で調査しました。開隆堂は、各巻末に「ひらめきショートチャレンジ」という題材があり、児童が自分で進められる内容になっています。そのため、既定の学習が早く終わった児童がさらに探究的に学習する際の補助に使用できるという構成になっています。日本文教出版は、「手の役割」のようなページを入れていることが特徴的です。これにより、どのように手先を使うか、考えを深めることができるという特徴があります。

最後に、デジタルコンテンツの扱いについてです。これについては、よりよいデジタルコンテンツがあることで学習の深まりが大きく違ってくるという意見がありました。授業中に教師の指導を助ける工夫があるか、児童一人一人の好奇心や探究心を刺激し、深い学びを可能にするものであるかという視点で調査しました。開隆堂は、各題材に「タブレットで見よう」という二次元コードがあり、用具の使い方・参考作品・ワークシートなどを見ることができます。また、立体の参考作品を360度鑑賞することができるように工夫されています。日本文教出版にも各題材に二次元コードがあり、用具の使い方・参考作品・つくり方などを見ることができます。つくり方には注意も示してあるので、そのまま導入に活用することもできます。

報告は以上です。よろしくお願いいたします。

○**教育長（酒井 泰君）** 説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○**委員（平原 保君）** 音楽と同じように、図工の指導は多くの小学校において、低学年では学級担任が指導し、中学年から高学年になると図工専科の教員が指導しているのが現状だと思います。そこで、学級担任が指導しやすいように、どのような工夫や配慮がなされているかお聞きしたいと思います。

○**図画工作科教科用図書調査委員長（高橋伸嘉君）** 例えばですが、作り方や使用する素材が詳しく載っています。また、二次元コードなどから動画を見て作り方などを見ることができ、児童も教員も作品のイメージが持ちやすいように工夫されています。また、参考作品が見られるようになっております。参考作品が具体的に示されることで、学級担任でも指導しやすい工夫がされていると思います。

○**教育長（酒井 泰君）** ほかにご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、各委員より採択候補を挙げていただきます。まず、日野委員、お願いします。

○**委員（日野佳昭君）** 開隆堂は多くの作品がある。学習のめあて、学びの資料が理解しやすい。日本文教出版は、作品の作り方、絵の描き方の記述が丁寧で、巻末に「材料と用具のひきだし」を設け、分かりやすく説明している。

以上より、開隆堂を推薦します。

○**教育長（酒井 泰君）** 続いて、平原委員、お願いします。

○**委員（平原 保君）** 私は日本文教出版を推薦します。その理由は以下の5点です。

第1に、学習のめあてについて、3観点と評価項目を用いて5点掲載されています。児童にとって学習のめあてを持って活動しやすく、教師は目標を明確にして指導することができると感じました。第2に、児童が楽しそうに作品づくりや活動している様子が分かりやすく紹介され、その作品が掲載されています。また、児童の気付きやつぶやきなどを吹き出しに記述してあり、児童が何をどのように学ぶかがよく分かります。こうした構成や表記から児童の発想が広がるような工夫がされています。第3に、児童が友達と関わりながら作り出す喜びを感じて活動している様子も多く紹介されています。さらに、喜びや感動を共有するように、複数の児童が作品を鑑賞する写真も掲載されていて、主体的・対話的で深い学びの実現につながることが期待できます。第4に、巻末の「材料と用具のひきだし」が充実しており、児童に材料や用具の使い方を分かりやすく示してあり、技能を着実に身に付けられるように配慮されています。第5に、巻頭に「保護者の方へ」と、図工のめあてや見守り方

について分かりやすく記載しており、学校と家庭が連携していけるように配慮されていると思います。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、増淵委員、お願いします。

○委員（増淵達夫君） 私は日本文教出版を推したいと思います。その理由ですが、各項目で使用する道具と、「気をつけよう」として安全確保のための留意事項が示されています。それから、児童が活動している写真が多く掲載されていて、キャプションによりその活動が分かりやすく示されています。さらには「みんなの図工ギャラリー」というページに、1・2年生の作品、3・4年生の作品、5・6年生の作品、特別支援学校・学級の作品、幼児の作品が掲載されておりまして、児童の発達段階等に応じて参考となる作品を鑑賞できるような工夫がされています。以上から、日本文教出版を推したいと思います。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私は開隆堂を推薦したいと思います。作成過程の写真や絵があり、作品を作るイメージが持ちやすかったです。また、道具の使い方が丁寧に書いてあり、道具を安全に使用しやすいと感じました。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 最後に私の意見を申しあげます。私は日本文教出版を推したいと思います。題材選択において、造形遊び、絵、立体、鑑賞の領域がバランスよく選択されていると思います。学習で扱う道具については、巻末に「材料と用具のひきだし」という記載があり、用具の扱いを児童が習得しやすい工夫が見られます。図工の指導における専門性の多寡にかかわらず教科書を中心に指導ができるような工夫があり、児童に気付いてほしいことを児童の写真で吹き出しの形式を使って掲載しています。二次元コードによる動画や作品の写真資料がかなり充実しています。特に特別支援学校・学級の児童の作品や幼児の作品も掲載されていて、多くの児童の作品に触れることができる工夫が見られます。以上の理由から、日本文教出版を推したいと思います。

それでは、これまでの意見をまとめますと日本文教出版が多数でありました。よって、図画工作の採択候補は日本文教出版とすることによってよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 全員異議なしですので、日本文教出版を採択候補といたします。

次に、家庭の説明をお願いします。

○家庭科教科用図書調査委員長（藤咲孝臣君） それでは、家庭についての報告をいたします。調査委員会での協議や教科の特性を踏まえ、各学年の目標を達成するための工夫について、主体的な学びについて、SDGsに関連した内容についての3つの観点について報告いたします。

初めに、各学年の目標を達成するための工夫についてです。こちらについては、各単元で身に付けさせる力を明確にし、児童が見通しをもって学習できるようにすることが大切であるという意見がありました。そのような視点で各教科書を調査しています。開隆堂については、各単元の小単元の見出し文は「なぜ調理するのだろう。なぜ針と糸で縫うのだろう」など、その単元で学ぶ意義や意味を問いかける文言になっています。東京書籍については、各単元の小単元の見出し文は、「調理の目的や手順を考えよう」「針と糸を使ってできること」など、具体的な活動が示される形になっています。

次に、主体的な学びについては、児童が生活から課題を見出し、興味・関心を持ちながら主体的に学んでいくことが大切であるという意見がありました。そこで、児童が主体的に学ぶことができるための手立てや方向性が示されているかなどの視点で調査を行っています。開隆堂については、多くの単元の最初に活動する児童の写真が配置され、活動のイメージがしやすくなっています。また、「考えよう」「できたかな」「やってみよう」などのめあての達成状況を自己チェックにより振り返ることができます。東京書籍については、実習作業の達成状況を自己チェックにより振り返ることができます。また、活動のヒントが単元の進行に沿って示され、主体的な学びを支える一助となっています。

最後に、SDGsに関連した内容については、家庭科の教科書の目標には「持続可能な社会の構築」の視点で物事を捉え、考察するように示されています。そこで、開隆堂については、5年の学習の最後と6年の学習の最後にそれぞれSDGsの視点で学習を振り返る単元を設定しています。また、東京書籍については、5年の学習単元の一つとしてSDGsに関わる単元を設定しております。

報告は以上です。よろしくお願いたします。

○**教育長（酒井 泰君）** 説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○**委員（日野佳昭君）** 食物アレルギーは重要な問題であると思いますが、どのような配慮がなされているのでしょうか。

○**家庭科教科用図書調査委員長（藤咲孝臣君）** どちらの教科書にも調理実習の留意点として、食物アレルギーの症状等を記載しております。また、食品表示についての資料の解説にも食物アレルギーについての留意点が記載されており、食物アレルギーがある人もそうでない人も留意しなければいけない視点が示されております。

○**教育長（酒井 泰君）** その他、質問はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、各委員より採択候補を挙げていただきます。まず、日野委員、お願いします。

○**委員（日野佳昭君）** 東京書籍は、生活の課題と実践があり、各項目に資料を盛り込み、より深い知識が得られる。2年間のまとめに大きな写真がある。開隆堂は、各ページの配置、色使い等、調和が取れており読みやすい。なお、今回の教科書にはどちらも「レッツクッキング」の英語とのつながりがありませんでした。

以上より、開隆堂を推薦します。

○**教育長（酒井 泰君）** 続きまして、平原委員、お願いします。

○**委員（平原 保君）** 私は開隆堂を推薦します。開隆堂を推薦する理由は次の4点です。

第1に、巻頭3ページを見開きとして、児童の成長とともに学習の関連性や系統性が分かりやすく直線的に表示してあり、児童が2年間の家庭科学習への見通しをもって取り組めるように配慮されています。第2に、学習の進め方について、3つのステップ、「1、気づく・見つめる」「2、わかる・できる」「3、生かす・深める」を繰り返して学ぶことで、これからの生活に役立てることができるように構成されています。こうしたステップを通して主体的・対話的で深い学びを実現していくことが期待できます。第3に、児童が基礎的・基本的な知識・技能を習得するために、資料が充実していて、分かりやすい表示になっています。例えば、「ソーイング はじめの一步」では、裁縫の基礎技能としての玉結びや玉止めなどについて、二次元コードを読み取ることで動画等のデジタルコンテンツを活用して学

習することができます。また、「ミシンで楽しくソーイング」や「ご飯の炊き方やみそ汁の作り方」など、裁縫と調理についても見開きページですっきりとしたレイアウトで簡潔に示してあります。第4に、裁縫や調理実習において、児童が安全に留意して活動できるように表示が工夫されています。例えば、加熱用調理器具の使い方、包丁の扱い方、熱湯の扱い方など児童へ視覚的に注意喚起しています。さらに巻末には「安全と衛生に気をつけて実習しよう」が掲載されていて随時活用できるようになっています。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続きまして、増渕委員、お願いします。

○委員（増渕達夫君） 私は開隆堂を推したいと思います。理由は、どのページも半分以上を写真や図で示していて、文字量を精選するとともに、内容を理解し、かつ、実習につながるようなことができるよう、児童に分かりやすい表現の工夫がされていると思いました。また、各章の最初に、例えば「ミシンが使えるようになったらどんなものを作りたい」など、学習を通して児童ができるようになりたいことを意識させる工夫が見られました。そのことによって何ができるようになったか、具体的な自己評価ができるようになっている、そういった配慮がされていると思いました。以上から、開隆堂を推したいと思います。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私は開隆堂を推薦します。道具の使い方や材料の説明が細かく丁寧で理解しやすかった。また、最初に「なんでだろう」と問いかけてゴールを目指すような形の構成になっていたのが好印象です。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 最後に私の意見を申しあげます。私は開隆堂を推したいと思います。学習のめあての達成状況を自分でチェックを入れ、振り返ることができる項目があること、話し合うポイントが分かりやすく明記されていること、単元の最後には、発展的な内容が盛り込まれていることなど、様々な形態の学びと確実な習得につながる工夫が見られました。また、基本的な実技の紹介が詳しい資料を使っており、充実していると感じます。

安全への注意喚起、基本的な切り方、縫い方の資料が巻末に配置され、それに加えて、調理器具や食器の一覧が写真で掲載されており、とても分かりやすいと感じました。特に、実写とイラストを上手に組み合わせることで児童が理解しやすい工夫が見られます。例えば、ボタンのつけ方では、教科書ではイラストを使い、二次元コードで実写の動画で異なった角度から分かりやすい説明がされています。以上の理由から開隆堂を推したいと思います。

それでは、これまでの意見をまとめると開隆堂が多数でありました。よって、家庭の採択候補は開隆堂とすることによろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 全員異議なしですので、開隆堂を採択候補といたします。

次に、保健の説明をお願いします。

○体育科教科用図書調査委員長（島田文江君） 保健について報告いたします。調査委員会での協議や教科の特性を踏まえ、各学年の目標を達成するための工夫について、他教科や他学年との関連、系統性について、デジタルコンテンツの扱いについての3つの観点について、報告いたします。

初めに、各学年の目標を達成するための工夫についてです。各単元の学習内容が捉えやすく、児童が見通しをもって課題解決していく学習が展開できることが大切であるという視点

で各教科書を調査しています。東京書籍については、章の初めに学習の流れや目標を確認することができました。大日本図書については、学習内容をつかませる折込みカードに工夫がありました。大修館については、めあてや考えることが単元の初めに示されていました。文教社について、単元の初めに、理解の定着に向けての説明がありました。光文書院では、学習の流れが各単元で明確になっており、活動の見通しをもつことができました。G a k k e nでは、学習の課題確認、課題解決の取組、振り返りと段階を踏んで目標を達成できるようになっていました。

次に、他教科や他学年との関連、系統性については、保健領域の系統的な指導の見通しや運動領域との関連、教科横断的な指導という視点で調査しています。東京書籍については、章の初めの「つなげよう」に他教科との関連について書かれていました。大日本図書については、中学校との系統性が図れており、道徳教育との関連を重視していました。大修館については、運動領域との関連と授業での活用方法が記載され、運動とのつながりが書かれていました。文教社について、運動領域との関連が示されていました。光文書院では、他学年や他教科とのつながりを示すマークがあり、理科や家庭科等の他教科の学習との関連を図る工夫がありました。G a k k e nでは、「つなぐ」マークがあることで、他学年や他教科との関連が明確になり、カリキュラムマネジメントができるようになっていました。

最後に、デジタルコンテンツの扱いについては、動画やアニメーションなどのデジタルコンテンツが児童の興味・関心を引き出し、学びの充実が期待できるかという視点で調査を行っています。東京書籍については、実際の実験や活動などを動画で見ることができ、イメージしやすかったです。大日本図書については、ウェブサイトにて全て集約されているので資料が選べる、また、単元の初めに学習ゲームを取り入れることで、児童が意欲的に学習に取り組める工夫がありました。大修館については、参考動画だけでなく、シミュレーションやウェブクイズなど興味に対しての配慮がなされていました。文教社については、子供自身の悩みなど等身大のモデルがありました。光文書院では、動画等が必要な単元や関連する二次元コードが適度に掲載されていました。G a k k e nでは、二次元コードを使って動画やワークシートを活用することができるようになっていました。

報告は以上です。よろしくお願いたします。

○**教育長（酒井 泰君）** 説明が終わりました。何かご質問はございますか。よろしいですか。

それでは、各委員より採択候補を挙げていただきます。まず、日野委員、お願いします。

○**委員（日野佳昭君）** 東京書籍は、心の健康などの内容の説明が丁寧です。学習課題、資料が分かりやすい。大日本図書は、「もっと知りたい」という項目が深い知識となっている。各ページの構成が分かりやすい。「話し合おう」という項目がある。大修館書店は、「振り返ってみよう」が理解しやすい。写真や絵が多く見やすい。資料に詳しい内容がある。文教社は、グループで取り組む内容がある。写真や絵が多く見やすい。光文書院は、情報量が適切な量。「見つけよう」から「話し合おう」「深めよう」までの流れが理解しやすい。全体の配置で内容が理解しやすい。G a k k e nは、不安の対処法が多い。「ほけんのはこ」で知識の発展が得られる。歯磨きが分かりやすい。

以上より、第一候補として文教社、第二候補としてG a k k e nを推薦します。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は、第一候補にG a k k e n、第二候補に大修館を推薦します。

まず、第一候補にG a k k e nを推薦する理由は、以下の4点です。第1に、単位時間が3つの学習課題に分けられており、各単位時間が同じように計画されていて、児童が見通しをもって主体的に学習することができます。第2に、各単元の初めに「つなぐマーク」があり、単元の中にも「つなぐ」という項目があり、他学年の保健の学習や他教科との関連が明確になっています。このことにより、児童が他教科の学習や自分の生活と関連付けたり結びつけたりして、自己の課題として心身の健康や安全について学べると感じました。第3に、写真とイラストが効果的に使われていて、情報が整理されていて見やすく、児童にとって分かりやすいと感じました。第4に、発達段階に応じた配慮がされ、児童の理解促進や不安解消につながると期待できます。また、生涯にわたって安全な生活を送るための知識、理解、習慣づくりへとつながると考えます。

次に、第二候補に挙げた大修館を推薦する理由は以下のことにあります。巻頭「生活の中の保健をさがそう」に象徴されるように、全体を通して児童の身の回りのことから健康や安全について学習できるように工夫されています。また、児童が連想しやすい場面や体験が多く取り入れられているので理解がしやすくなっています。さらに、まとめや振り返りのページには学んだことを自分の生活に生かすことが記述できるようになっています。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、増淵委員、お願いします。

○委員（増淵達夫君） 私は第一候補を大修館、第二候補をG a k k e nとしました。

第一候補の大修館の理由ですが、「課題をつかもう」として本時の課題が明確に示されているため、「話し合おう」「考えよう」「調べよう」など具体的な学習活動が示されているため、一定水準の指導が確保できるような編集上の工夫がされていると思いました。また、3・4年生の冒頭に保健を学ぶ意義について考えさせるページが設けられています。こうしたことから主体的に学ぶ意欲、そういったことを育もうとする意図が見られると思います。

第二候補のG a k k e nの理由は、節ごとにその初めに「予想する」「理由について話し合う」「学びを生かす」など、学習の流れが示されているため、見通しをもって学ぶことができる工夫があると思います。また、学習を通して気づいたことや考えたことを書き込むスペースが十分に確保されていますので、学習を通して様々なことを書き込みながら学ぶことができる。そういう工夫があると思います。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続きまして、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私は第一候補としてG a k k e nを推薦したいと思います。まず、全体的に読みやすい構成になっていること、また、3つのピースをつなぎ合わせる方法がとても理解しやすかったです。

第二候補として光文書院を推しました。絵や写真の説明がとても分かりやすく理解しやすかったです。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 最後に私の意見を申しあげます。私はまず、G a k k e nを推したいと思います。各単位時間が3つの学習課題に分けられており、児童が学習に見通しをもって取り組みやすい工夫がなされています。また、課題に対して自分の考えを書き込む方法を取り入れており、児童にとって課題に取り組みやすい構成となっていると思います。学習

の進め方の中に、話し合いの時間や教え合いの時間が設定されており、協働的な学習に取り組みやすい工夫が見られます。単元の終わりに学習の振り返りのページが設けられており、学習内容の定着を図る工夫とともに、「学習したことを伝える」「明日につなぐ」という項目もあり、発展的な学習を促す工夫も見られます。二次元コードにアクセスすると、学びを深めるコンテンツとして豊富な動画と学習シートが用意され、補充的な学習や発展的な学習へも対応しています。

次に、東京書籍を推したいと思います。章の初めに、学習の流れや目標を確認することができ、ゴールイメージを持って学習に取り込むことができる工夫が見られます。また、「つなげよう」という項目で他教科との関連について記載し、学習に広がりをもたせる工夫がなされています。表やメモ欄に自分の考えを記載できることに加え、ほかの人の意見を聞いて考えたことや分かったことを記載できるようになっているなど、対話的な学習を促す工夫が見られます。

以上の理由から、第一候補としてG a k k e n、第二候補として東京書籍を推したいと思います。

それでは、ここまでの意見をまとめますと、第一候補においてG a k k e nが多数でありました。よって、保健の採択候補はG a k k e nとすることよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(酒井 泰君) 全員異議なしですので、G a k k e nを採択候補といたします。

次に、英語の説明をお願いします。

○外国語科教科用図書調査委員長(宮内和夫君) 英語について報告いたします。調査委員会での協議や教科の特性を踏まえ、各学年の目標を達成するための工夫について、他教科や他学年との関連、系統性について、対話的な学び、協働的な学びについての3つの観点について報告いたします。

初めに、各学年の目標を達成するための工夫について、各単元で身に付けさせる力を明確にし、児童が見通しをもって学習できるようにすることが大切であるという意見がありました。教育出版については、学びの見通しが立てやすいロードマップが示されています。単元のゴールが共有できるようになっています。東京書籍については、単元のはじめに児童にも3観点の目標が分かるように示されています。光村図書については、ホップ・ステップ・ジャンプの流れで学習できるようになっています。CAN-DOリストをチェックし、児童が4段階で自己評価できます。三省堂については、ホップ・ステップ・ジャンプの3段階で目標を達成できるように構成されています。開隆堂については、2年間の評価計画があり、各単元で評価する領域と観点を精選しています。啓林館については、GOAL(めあて)を明確に提示しており、目標を意識しやすいものになっています。

次に、他教科や他学年との関連、系統性について、外国語では合科的な指導がどの程度可能かどうかという視点が必要ではないかという意見が出ました。そのような視点で各教科書を調査しています。教育出版については、国語科で学習する物語文や社会科の地図記号などが取り入れられています。東京書籍については、各単元で主な他教科との関連をマークで示しています。ジェスチャーなど外国の文化を理解するための工夫もされています。光村図書については、「言葉について考えよう」で災害についての英語に触れられています。第5学

年で、金子みすゞさんの日本語の詩を読みながら英語で詩を作る活動があり、国語科との関連があります。三省堂については、社会・理科・算数・家庭科・国語など、今日的な課題への理解を深められる工夫がされています。開隆堂については、他教科との関連性をひと目で分かるマークで示してあります。5年生では日本の文化、6年生ではSDGsなど、他教科と関連性を持たせながら学ぶことができます。啓林館については、社会科の日本の文化や他国の文化など、他教科と関連性を持たせながら学ぶことができます。

最後に、対話的な学び、協働的な学びについて、外国語では、習得した知識・技能を活用しながら、対話的な学び、協働的な学びを重ねることで、児童の学びの深まりや知識の定着も図られるといった意見がありました。外国語の特性を生かした学習がしやすい工夫がされているか、児童の興味・関心を引き出して対話的・協働的な学びに向かえるような工夫がされているかという視点で調査を行っています。教育出版については、ペアやグループでの活動が多く設定されています。友達と気付きを話し合い、思考を促す工夫がされています。東京書籍については、児童が自分の考えをほかの児童と共有し、対話しながら学ぶことができるような活動が取り入れられています。グループで助け合いながら行う活動も取り入れられています。光村図書については「Let's try.」に「Plus One」のコーナーが設定されて、より詳しくやり取りができる手立てがあります。三省堂については、発表活動の前にペアワークやグループワークで協働練習をして、対話的に学び合うように配慮されています。開隆堂については、ペアワークやグループワークが多く対話的な学びに配慮があります。スモールトークが2時間に1回程度設定されて定着を図ります。啓林館については、ペアワークやグループワークが多く対話的な学びに配慮があります。児童の意欲が湧きやすい題材、具体例があります。

報告は以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長（酒井 泰君） 説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員（増淵達夫君） 府中市では、独自に取り組んでいる「英語Enjoy Week」や「TOKYO GLOBAL GATEWAY」の訪問などの体験的な活動、日々の教科指導での英語の話す力の育成の充実につなげるため、教科書の採択に当たって学校の立場から求めたいことは何か、教えていただければと思います。

○外国語科教科用図書調査委員長（宮内和夫君） 日々の授業においても、習得した英語表現などを活用する機会を多く設定することが話す力の育成につながります。単元末の活動が実生活に活用できる内容になっていることや、児童の興味・関心を引き出せる単元内容になっていることが必要だと考えられます。また、英語力には児童により差があることから、英語力に差があっても活動が個に応じて取り組みやすい内容であることや、発表して終わりではなく、そこから意見交流などができる内容が指導しやすいと考えています。

○教育長（酒井 泰君） その他、ご質問はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、各委員より採択候補を挙げていただきます。まず、日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 東京書籍は、聞くこと、話すこと、書くことが多い。開隆堂も聞くこと、話すこと、書くことが多い。ガイドブックがある。対話的項目がある。三省堂は、中学1年生の知識につながる項目がある。対話的項目がある。教育出版は、絵、写真が多く、日本、世界の記述が多い。友達との話し合いの項目がある。光村図書は、会話形式の項目が

ある。「Let's try.」が学習の発展によい。啓林館は、英語を聞くことが多い。「会話を楽しむ」があり、ふだん使用する慣用句がある。巻末に単語帳がある。

以上により、第一候補としては啓林館、第二候補としては教育出版を推薦します。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は、第一候補に光村図書、第二候補に教育出版を推薦します。

初めに、第一候補の光村図書を推薦する理由は以下の4点です。第1に、ホップ・ステップ・ジャンプの流れで学習して児童が段階ごとに目標達成できるようになっています。コミュニケーションを図る基礎を着実に積み重ねていくことが期待できます。第2に、様々な場面において、ペアの会話や小グループの活動も設定しており、コミュニケーションを大切にしている、主体的・対話的な学びへとつなぐことが期待できます。また、単元末の活動の具体例が写真で掲載されていて、児童がどのように活動すればよいか捉えやすくなっています。第3に、「世界の友達」コーナーで、様々な文化的背景の国が選ばれており、国際性が豊かです。世界の国々への関心や、スポーツを始め、世界で活躍する人々の紹介があり、児童が英語を学ぶことへの意欲が喚起できると期待できます。第4に、ICT活用例のページが掲載されていて、児童がICTを活用して英語の学習に楽しく取り組めるようになっています。また、デジタルコンテンツが子供たちにとって楽しく分かりやすい構成になっていると感じました。

次に、第二候補に教育出版を推薦する理由は、以下の3点です。第1に、児童にとって親しみがある題材が取り入れられています。例えば、国語科で学習する物語文、社会科の地図記号などがあり、他教科の学習と結びつけて学ぶことができます。第2に、ペアやグループでの活動が多く設定されています。友達と気付きを話し合い、思考を促す工夫がされていて、主体的・対話的な学びへとつながることが期待できます。第3に、巻末資料のワークシートが充実していて、各単元の学習で活用できるようになっています。例えば、「My Summer Vacation」「My Best Memory」などのカードを作成し蓄積することで、小学校における英語学習のポートフォリオとして活用できると思います。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、増淵委員、お願いします。

○委員（増淵達夫君） 私は、第一候補を教育出版、第二候補を東京書籍としました。

まず、第一候補の教育出版の理由ですけれども、全てのレッスンが「Goal」で目標を具体的に明示するとともに、「Let's Watch」「Let's Say It Together」「Let's Listen」「Activity」で構成され、ゆとりのある構成やレイアウトで編集されていると思います。それから、5年生、6年生ともに冒頭に「Classroom English」が置かれています。これによって学校生活における基本的な英語表現を日常的に活用できる配慮が施されていると思いました。

第二候補を東京書籍とする理由は、5年生は「自分のこと」「身近な地域のこと」「日本のこと」、6年生は「世界や国の生活のこと」「世界と地球のこと」「思い出と夢」という構成になっている、人と人とのコミュニケーションや国際理解という観点が鮮明であると思いました。各レッスンは「Starting out」「Your Turn」「Enjoy Communication」「Over the Horizon」で構成されている

て、学習活動の視点が明確に示されていると思われました。以上が推薦の理由です。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私は第一候補として開隆堂としました。別紙と連携していてとても見やすく理解しやすかったです。

第二候補として啓林館です。全体的に見やすく理解しやすかったこと、また、なじみのものを多く感じ、英語を身近に感じることができました。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 最後に私の意見を申しあげます。私はまず、教育出版を推したいと思えます。単元の初めには映像を使って導入する手法がとられ、学習の全体像を把握した上で、具体的な学習内容に取り組むことができるよう工夫がされています。全ての単元でペアやグループでの活動が多く設定されています。他者と会話し気付いたことを話し合うことを促す工夫が見られ、児童の発話量を増やすとともに、児童の思考を広げる工夫がされていると感じました。巻末にワークシートとアルファベット・ピクチャーカードが用意されており、シール等を使い、ワークシートを活用した学習がより充実するような工夫が見られます。

続いて、光村図書を推したいと思えます。単元ごとに「Small Talk」が設定されていて、他者との英語を使った会話を促す工夫が見られます。Can-Doリストをチェックして児童が4段階で自己評価ができるようになっています。単元末のまとめでは、活動の具体例を写真で掲載することで児童がどのような活動をするのかが分かりやすくなっており、学習の振り返りと定着に役立つ工夫となっています。巻末にアルファベットカードとピクチャーカードが用意されており、切り取り、各単元における学習に活用できるようになっています。「世界の友達」のコーナーでは、多くの国が選ばれており、国際理解の推進にもつながると思えます。

以上の理由から、第一候補として教育出版、第二候補として光村図書を推したいと思えます。

それでは、これまでの意見をまとめますと、第一候補では過半数を満たした発行者がありませんでした。会の冒頭に確認させていただいたとおり、その場合、第二候補に挙がった発行者を加味することとしております。第一候補及び第二候補において教育出版が多数でありました。よって、英語の採択候補は教育出版とすることによろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 全員異議なしですので、教育出版を採択候補といたします。

次に、道徳の説明をお願いします。

○道徳科教科用図書調査委員長（安原一朗君） 道徳について報告いたします。選定資料作成委員会での協議や教科の特性を踏まえ、児童の発達段階を配慮した内容の工夫について、主体的学びについて、対話的な学び、協働的な学びについての3つの観点について報告いたします。

初めに、児童の発達段階を配慮した内容の工夫については、児童の発達段階に即し、ねらいを達成するにふさわしい内容であることが求められるという意見がありました。東京書籍については、心情円が巻末に入っています。また、1年生では教材で扱う内容項目に関する絵本が紹介されており、読み聞かせを取り入れることで児童が意欲的に授業に取り組めるよう配慮されていました。教育出版、光村図書については、ゲーム依存症など、今日の児童

の喫緊の課題が取り上げられています。日本文教出版については、教材名の横に目標を意識するためのポイントが示されており、児童が意欲的に授業に取り組めるよう配慮されていました。光文書院については、巻末に相田みつを氏の書の掲載があり、次学年に向けての励ましの言葉となっています。光文書院は、別売の道徳ノートがあるのも特徴です。株式会社Gakkenについては、冒頭にキーフレーズがあり、スムーズな導入が期待できます。最後の「考えよう」が、児童が自己を見つめて考えるきっかけとなる主発問となっています。

次に、主体的な学びについてです。悩みや葛藤等、心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられる教材が求められるという意見がありました。東京書籍については、中・高学年では、教材末の「考えよう」に、児童の問題意識を喚起し、主体的な学びに誘う学習への呼びかけが掲載されています。教育出版については、解決マークがついているものは、問題を解決する手順が分かりやすく示されています。光文書院では、各学年のオリエンテーションで、子供が常に問いを持って授業に臨むことの重要性を示しています。株式会社Gakkenについては、関心、意欲を持って取り組めるように、先人だけではなく今活躍している人たちも多く取り上げています。光村図書では、「道徳の学び方」があり、道徳の時間の流れが年度当初に理解できるようにしています。日本文教出版については、役割演技や動作化の写真をふんだんに提示し、児童への配慮や必要な小道具、配慮事項などが具体的に示されているため、実際の授業場面で参考にすることができます。

最後に、対話的な学び、協働的な学びについてです。各社とも、各教材文の冒頭に内容項目が示されているので、何を学ぶか見通しをもつことができます。株式会社Gakkenについては、各教材文の冒頭に内容項目を示さず、教材文の中の「キーフレーズ」があります。主題が最初に書いていないので、児童の心を揺さぶる展開が期待できます。悩みや葛藤等、心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることが期待できます。

報告は以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長（酒井 泰君） 説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員（増淵達夫君） 現在、府中市では、「郷土府中に根ざした道徳資料集」の全面改訂に取り組んでいると伺っています。限られた道徳科の授業時間の中で、この道徳資料集と教科書をどのように活用していくのか伺います。

○道徳科教科用図書調査委員長（安原一朗君） 主たる教材は教科書になりますので、教科書を中心に指導を進めていくことになりますが、児童が身近に感じる府中市に関連した「郷土府中に根ざした道徳資料集」を活用することは、児童の興味・関心や郷土に関する理解を育む上で意味が大きいものと考えています。ですから、教材の内容項目に合わせ、各学年の年間指導計画に位置付けて活用していくことになると思います。

○教育長（酒井 泰君） その他ご質問はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、各委員より採択候補を挙げていただきます。まず、日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 東京書籍のデジタルコンテンツは、朗読スライドショー、デジタルノートと利用しやすい。項目ごとの「考えよう」に学びの要点が分かる。「タマゾン川」がある。心情円グラフが理解しやすい。教育出版は、「考えよう」「深めよう」と授業の見通しがよく分かる。光村図書は、ゲーム依存症の項目が理解しやすい。「考えよう」「話し

合おう」「つなげよう」と見通しが立てやすい。日本文教出版は、道徳ノートがある。オリンピックの項目がある。光文書院は、「考えよう」「まとめよう」「広げよう」と授業の見通しが理解しやすい。リーチマイケル、FC東京の記述がある。G a k k e nは、「考えよう」と授業の見通しが立てやすい。

以上より、第一候補としては光村図書、第二候補として東京書籍を推薦します。

○教育長（酒井 泰君） 続きまして、平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 第一候補に光村図書、第二候補にG a k k e nを推薦します。

まず、第一候補に光村図書を推薦する理由は以下の4つです。第1に、全学年の目指す児童の姿が記載されており、各項目の主題、教材について現代的な課題との関わりも明示されていて、学校と家庭が連携して道徳教育を進められるように配慮されています。第2に、各教材に「学習の手引き」「考えよう」「話し合おう」が設けてあり、児童が自分ごととして考え、問題を解決するために、主体的・対話的に学ぶことができます。さらに、2年生以上には「つなげよう」が加わり、ほかの教科、領域で学ぶことや生活と関連付けて児童が考えを広げたり、深めたりできるようになっています。第3に、巻頭に「道徳で学ぶ22の扉」「道徳の道案内」「話し合いのコツ」など児童が見通しをもって学べるようになっています。第4に、これまでの道徳の授業で長年にわたり実践・研究を積み重ねてきた教材が多くあると感じます。例えば、「かぼちゃのつる」「友のしょうぞう画」「手品師」などを始め、多数の教材があります。一方、情報モラル、防災、福祉、いじめ問題など、現代的な教育課題に関連する教材も充実しています。

次に、第二候補にG a k k e nを推薦する理由は以下の3点です。第1に、全学年の巻頭に、道徳の学び方や内容、自分を見つめ深めるポイントなどが児童の発達段階に即して分かりやすく記述されています。第2に、多様な教材、題材がバランスよく掲載されていて、児童が幅広く学ぶことができると感じました。また、冒頭にあるキャッチフレーズを活用することにより、児童の心に残る授業が展開できると期待します。第3に、問題意識を持って多面的、多角的に考えたり、感動を覚えたりするような現代的な課題なども題材として選択されています。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続きまして、増淵委員、お願いします。

○委員（増淵達夫君） 第一候補を光村図書、第二候補は教育出版を推したいと思います。

まず、第一候補、光村図書を選ぶ理由は、教材の後に「考えよう」「話し合おう」「つなげよう」という段階を提示しています。特に「つなげよう」では、自分自身の課題として考えさせる工夫があると思います。それから、考えたり、話し合ったりするスキルに関する記述とともに、例えば、第5学年の中には話し合う際の相手への思いやりにつながる言葉などが示されていて、実際の児童の生活場面にも活用できる配慮がされていると思いました。

第二候補、教育出版の理由ですが、教材の後に「考えよう」「深めよう」と設問のレベルが分かりやすく示されています。そして、「しっかり考えられた」もしくは「新しく気づいたことがあった」「大切にしたいことが分かった」など、学習の後に子供たちが自己評価できる、そういった配慮がされていると思いました。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 続きまして、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私は、第一候補としてG a k k e nを推薦します。G a k k e n

では、SNSの具体的な説明がありとても理解しやすかった。また、近年の事例が多くとても身近に感じて理解しやすかったです。

第二候補として光村図書を推薦します。最後に振り返りやすい形になっています。また、全体的に見やすい印象でした。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 最後に私の意見を申しあげます。私はまず光村図書を推したいと思います。「道徳の学び方」という項目が用意されており、道徳の時間の学習の流れが理解できるようになっています。「みんなで気持ちよく話し合うためのコツ」「心を通わそう」「『考える』準備たいそう」と段階を追って協働的な学びに欠かせない対話する力を育む教材が用意されています。また、「家の人と一緒に考えてほしいこと」という記載もあり、学習の広がりをもつ工夫が見られます。各教材の学習の手引きの下には、他教科やSDGsとの関連が分かるようマークが付してあり、一目でその関連が分かるように工夫されています。

教材末に、学習の手引き「考えよう」「話し合おう」という項目が掲載されています。自分自身の問題として考えたり、問題を解決するために話し合ったりするなど、多面的、多角的に考えられる発問が提示されていて、児童にとって学びやすい工夫だと思います。また、二次元コードにより、音声資料である専門家の朗読、写真資料として教科書本文には掲載できなかった関連資料を掲載するなど、豊富なコンテンツが用意されているのも特徴の一つであると思います。

次は、東京書籍を推したいと思います。挿絵やイラスト、ワークシート、デジタル教材など、児童の実態に適した学習に取り組みやすい教材選択がなされていると感じます。中・高学年では、教材末の「考えよう」に、児童の問題意識を喚起し主体的な学びに誘う工夫が見られ、様々な考えに触れ、課題を自分のこととして考える学習に導くものとなっています。二次元コードにより、教科書に掲載されている挿絵をデジタル化し、それに専門家による朗読を重ねるとともに、動画映像を多数掲載し、児童が身近な課題と捉え、自分の考えをまとめることができるようになっていると思います。

以上のように、第一候補として光村図書、第二候補として東京書籍を推したいと思います。

それでは、これまでの意見をまとめますと第一候補において光村図書が多数でありました。よって、道徳の採択候補は光村図書とすることによってよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 全員異議なしですので、光村図書を採択候補といたします。

それでは、全ての種目の採択候補が選定されました。国語は光村図書、書写は光村図書、社会は日本文教出版、地図は帝国書院、算数は東京書籍、理科は東京書籍、生活は東京書籍、音楽は教育芸術社、図画工作は日本文教出版、家庭は開隆堂、保健はG a k k e n、英語は教育出版、道徳は光村図書です。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 次に、小・中学校特別支援学級用教科用図書について協議を行います。説明をお願いします。

○小学校特別支援学級教科用図書調査委員長（生井信太郎君） 初めに、小学校特別支援学級の教科用図書については、各学校が児童の実態に応じた教科用図書で指導できるよう、府中市の小学校が採択する文部科学省の検定済教科用図書、学校教育法附則第9条第1項の規

定よる教科用図書、いわゆる一般図書を採択候補としております。なお、採択候補としている一般図書については、東京都教育委員会発行の「特別支援教育教科書調査研究資料」に掲載されている一般図書でございます。

○中学校特別支援学級教科用図書調査委員長（成清敏治君） 次に、中学校特別支援学級の教科用図書については、全て文部科学省検定済教科用図書を採択候補としております。なお、検定済教科用図書を使用する場合には、生徒の理解度や進度に差があるため、生徒の興味・関心の定着度を十分に配慮した補助資料などを活用し、個々の状況に合った指導を行っていきます。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員（増淵達夫君） 中学校の委員長から、検定済教科書と併せて補助資料を活用するとのこと説明がありましたが、具体的にどのような補助資料を活用するのか教えてください。

○中学校特別支援学級教科用図書調査委員長（成清敏治君） 各教科の内容に沿いまして、生徒の障害の状況や習熟の状況に応じて、教員が作成したプリント教材を使用します。また、学習の補助的な教具などを活用して行っていきます。

○教育長（酒井 泰君） そのほかご質問ございますでしょうか。

○委員（日野佳昭君） 小学校へ質問します。一部の学校において一般図書を多く採択候補として推薦されていますが、理由は何でしょうか。

○小学校特別支援学級教科用図書調査委員長（生井信太郎君） 一般図書については、情報が絵や図などを使って視覚的に示されていることで、視覚的な情報処理が優位な児童が理解しやすいものや、日常生活の場面に結び付けて理解しやすいものなど、各学校、各学年の児童の障害の特性や、学習上の課題の状況に応じたものが採択候補とされています。

○教育長（酒井 泰君） その他、ご質問ございませんか。

○委員（増淵達夫君） 今のやり取りに関連して、日野委員のご質問にもつながるところになりますが、例えば、今はデジタル版などもありますが、それも含めて検定済教科書を使用することが適当でないという判断の理由と、その代わりとなる教科用図書としての要件は一体何かということをお教えください。

○小学校特別支援学級教科用図書調査委員長（生井信太郎君） 例えば、特別支援学級の児童の中には、読み書きの困難さに加えて、自身の生活体験から離れた場面や、そうした状況をイメージすることの難しさ、学習した内容の定着が図りにくい児童などがいます。各学校、各学年の児童の障害の特性や学習上の課題に応じて、検定済教科書や文部科学省著作教科書、下学年の検定済教科書の使用について検討した上で、一般図書を使用することが適当と判断しています。

一般図書を教科用図書として使用するに当たっては、可能な限り体系的に編集されており、教科の目標に沿う内容を持つ図書であることや、上学年で使用する図書や採択する他教科の図書との関連性も考慮することなどが要件となります。

○教育長（酒井 泰君） 増淵委員、いかがでしょうか。

○委員（増淵達夫君） 最後に確認をさせていただきたいのですが、中学校では全て検定済の教科書ですので、特に小学校高学年については中学校への円滑な接続ができるような配慮が必要だと思っております。小学校では、具体的にどのように取り組むのかをお教えください。

○小学校特別支援学級教科用図書調査委員長（生井信太郎君） 特別支援学級においては、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり、特別支援学校の各教科に振り替えたりする特別の教育課程を編成しています。教科指導においては、各教科の学習だけでなく、各教科等を合わせた指導においても取り扱い、主たる教材である教科用図書だけでなく、児童の実態に応じた補助的な教材も活用して、中学校への接続が図れるように配慮しています。

○教育長（酒井 泰君） その他ご質問はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、ご意見をお願いします。まず、日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 各学校が希望した教科用図書を採択候補とすることを認めます。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 特別支援学級における教科用図書については、学校教育法附則第9条に規定されていますが、各学級の児童の実態に則して指導法を工夫したり、教育効果を高めたりするために、適切な教科用図書を選定することが重要であると考えています。令和6年度には、各学校の使用教科用図書の一覧表に示された教科用図書を有効活用していただきたいことを願っています。そして、充実した教育が推進されることを期待しています。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、増淵委員、お願いします。

○委員（増淵達夫君） 先ほど様々回答していただきましたので、各学校が希望した教科用図書を選択候補とすることを認めたいと思います。

○教育長（酒井 泰君） 続いて、山下委員、お願いします。

○委員（山下和則君） 私も各学校が希望した教科用図書を採択候補とすることを認めたいと思います。

○教育長（酒井 泰君） 最後に私の意見を申しあげます。特別支援学級において、多くの学校、多くの学年で文部科学省の検定済教科用図書を希望しています。また、学校によっては特定の学年、教科において、東京都教育委員会発行の「特別支援教育教科書調査研究資料（一般図書）」の中から在籍する児童の障害の程度と状況に応じて指導に最もふさわしい図書を候補として挙げています。いずれの場合も法令上問題はなく、児童の実態に応じ最も使用にふさわしいものと判断されるので、今回、調査研究委員会の特別支援学級用教科用図書候補一覧にあるとおりの図書を採択候補としてよいと考えます。

それでは、特別支援学級の教科用図書の採択候補でございますが、皆様からの意見を踏まえ、特別支援学級を設置している各小・中学校からの希望があった教科用図書を採択候補とすることでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 全員異議なしですので、特別支援学級用教科用図書候補一覧にある教科用図書を採択候補といたします。

以上で、協議は全て終了いたしました。ただいま協議した内容を基に事務局が議案を用意いたしますので、一旦定例会を中断し、30分間の休憩といたします。再開はこの会場の時計で17時23分としたいと思いますので、よろしく願いいたします。

午後4時53分中断



午後5時23分再開



◎第48号議案 令和6年度使用教科用図書の採択について

○教育長（酒井 泰君） それでは、定例会を再開いたします。

日程第4、第48号議案の審議に入ります。事務局より議案の配付をお願いします。

（議案配付）

○教育長（酒井 泰君） それでは、議案の朗読をお願いします。

（事務局朗読）

○教育長（酒井 泰君） 説明をお願いします。

○教育指導担当主幹（濱田昌也君） 第48号議案「令和6年度使用教科用図書の採択について」、説明いたします。本議案は、府中市教育委員会が令和6年度に府中市立小・中学校及び特別支援学級で使用する教科用図書について採択を行うため提案するものでございます。

議案書1ページをお願いいたします。「1 小学校用教科用図書」についてですが、別紙1をご覧ください。先ほど日程第3でご協議いただきました、小学校の各教科、種目の教科用図書の一覧でございます。

続きまして、議案書1ページの「2 中学校用教科用図書」についてですが、別紙2をお願いいたします。中学校の各教科、種目の教科用図書の一覧については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条及び同法施行令第15条の規定に基づき、令和6年度の採択は令和5年度に採択したものと同一の教科用図書となっております。

最後に議案書1ページの「3 特別支援学級用教科用図書」についてでございますが、協議の内容を踏まえ、別紙3には、特別支援学級を設置している各小学校の教科用図書一覧、別紙4には、特別支援学級を設置している各中学校の教科用図書一覧でございます。

説明は以上でございます。よろしくをお願いいたします。

○教育長（酒井 泰君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

ご意見はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。第48号議案「令和6年度使用教科用図書の採択について」、決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 全員異議なしですので、原案どおり決定いたします。



○教育長（酒井 泰君） それでは、これで令和5年第8回府中市教育委員会定例会を閉会いたします。



午後5時26分閉会

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証
するため、ここに署名する。

令和5年12月21日

府中市教育委員会教育長

酒井 泰

府中市教育委員会委員

山下 和則